

# 急性期病棟での長期入院患者の 早期退院のための対応策

## チーム医療とリハビリ実施方法の改善

株式会社サイプレス  
代表取締役社長 伊藤 雅教  
2017年2月22日

# 入院が長期化する疾患と病床運営の影響

## 長期化する疾患の抽出条件

- ・ 30日以上入院
- ・ 入院時ADL：0-10
- ・ 75歳以上

全症例に対して  
件数：2.0%  
日数：7.4%

MDC6名称	リハビリあり				リハビリなし				総計	
	入院時ADL 0-5		入院時ADL 6-10		入院時ADL 0-5		入院時ADL 6-10			
	件数	日数	件数	日数	件数	日数	件数	日数	件数	日数
誤嚥性肺炎	867	46,273	73	3,856	206	9,593	11	530	1,157	60,252
股関節大腿近位骨折	930	51,475	115	6,700	6	243	2	97	1,053	58,515
脳梗塞	635	35,493	143	7,740	16	708			794	43,941
心不全	472	23,649	154	7,503	88	4,154	30	1,178	744	36,484
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	356	18,985	75	3,464	43	1,868	12	554	486	24,871
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)	224	12,278	72	3,244	3	135			299	15,657
敗血症	232	13,270	22	1,162	28	1,181	7	326	289	15,939
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	223	12,894	14	820	6	272			243	13,986
腎臓または尿路の感染症	181	9,147	23	1,017	35	1,636	3	111	242	11,911
胆嚢水腫、胆嚢炎等	78	4,571	17	871	17	776	5	214	117	6,432
~~~~~										
小計	6,788	370,848	1,499	77,922	823	39,866	207	9,056	9,317	497,692
~~~~~										
全症例の合計									214,483	3,026,479

全症例に対して  
件数：4.3%  
日数：16.4%

# 入院が長期化する疾患トップ5に対策が必要

- 長期化するトップ5疾患にはリハビリが効果的
  - 誤嚥性肺炎
  - 股関節大腿近位骨折
  - 脳梗塞
  - 心不全
  - 肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎
- 長期化する疾患の患者を入院時にどう把握するか
  - ・30日以上入院
  - ・入院時ADL：0-10
  - ・75歳以上

入院時のスクリーニング

No.	条件	レ点	項目	備考
①	社会的		独居又は75歳以上の高齢世帯である	
②	障害		入院時のADL項目10点以下である	
③			IADLに介助を要する	
④			認知障害・精神障害のいずれかである	
⑤	医療・医療行為		股関節大腿近位骨折・誤嚥性肺炎等・肺炎、心不全(PCI・検査入院は除外)のいずれかである	
⑥			胸椎、腰椎以下骨折損傷・悪性腫瘍・腎臓または尿路の感染症のいずれかである	
⑦	家族介護		介護力不足が予測される(高齢・病弱・病人がいるなど)	
⑧	社会資源		介護保険制度の利用が必要な状態であるが未申請者である	
⑨			身体障害者手帳を持っている、あるいは今後必要となる	

## 疾患別のリハビリでは3つに分けられる

- 早期リハビリ開始で入院日数の短縮に効果がある
  1. リハビリ単位数/日の増加でADL改善が高くなる
    - 脳梗塞
    - 心不全
    - 肺炎（75歳以上）
    - 股関節大腿近位骨折（75歳以上）
    - 腎臓または尿路の感染症
    - 敗血症
  2. 入院時ADLが低い患者にリハビリ単位数/日を増やすとADL改善に効果がある
    - 胆管（肝内外）結石、胆管炎
  3. リハビリ単位数/日を増加してもADL改善に差がない
    - 乳房の悪性腫瘍
    - 2型糖尿病
    - 誤嚥性肺炎
    - 急性心筋梗塞
    - 胃の悪性腫瘍
    - 胸椎、腰椎以下骨折損傷

# DPCデータからのリハビリテーションの効果の分析方法

- 施設数：35の急性期病院
- 対象期間：2014年4月～2016年3月の2年間。
- データ抽出方法
  - DPC様式1の入院時のADLスコアと退院時のADLスコアの記載のあるものを選択。
    - ＊入院時のADLスコアと退院時のADLスコアの、不明の9は除外。
  - リハビリを入院中に1回のみ実施したものは、リハビリ方法の教育目的として除外。
  - DPC期間III超えの患者は、社会的背景の入院を含むものも多いため除外。
  - 入院時のADLスコアより退院時のADLスコアが低下したものは、リハビリ以外の病態による原因として除外。
  - リハビリの実施単位が10単位を超えたものはDPCデータの不備として除外。
  - 死亡退院したデータは除外。
- 分析症例数：54,438例

## MDC6疾患別のリハビリ実施症例数(54,438例降順60%を表示)

MDC6名称	リハビリ有り無し		症例数
	なし	あり	
脳梗塞	567	2,560	3,127
誤嚥性肺炎	1,136	2,477	3,613
心不全	2,189	2,205	4,394
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	4,747	2,120	6,867
股関節大腿近位骨折	123	1,680	1,803
腎臓または尿路の感染症	1,916	938	2,854
肺の悪性腫瘍	5,422	926	6,348
2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	1,966	919	2,885
乳房の悪性腫瘍	2,506	865	3,371
肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。)	166	842	1,008
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞	448	789	1,237
敗血症	642	710	1,352
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	110	613	723
脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎	387	610	997
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)	84	584	668
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	2,413	559	2,972
狭心症、慢性虚血性心疾患	11,890	497	12,387
結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	4,167	495	4,662
膝関節症(変形性を含む。)	22	440	462
慢性閉塞性肺疾患	217	434	651
胃の悪性腫瘍	4,120	434	4,554
間質性肺炎	507	395	902
ヘルニアの記載のない腸閉塞	2,586	368	2,954
頭蓋・頭蓋内損傷	703	357	1,060

疾患別の症例数の比較では、リハビリありの症例が多い疾患(脳梗塞、誤嚥性肺炎、股関節大腿近位骨折など)と少ない疾患がある(腎臓または尿路の感染症、肺の悪性腫瘍、2型糖尿病、乳房の悪性腫瘍)

**早期リハビリ開始で入院日数の短縮に効果がある**  
**リハビリ単位数/日の増加でADL改善が高くなる**

**脳梗塞**

**心不全**

**肺炎(75歳以上)**

**股関節大腿近位骨折(75歳以上)**

**腎臓または尿路の感染症**

**敗血症**

## 神経系疾患のリハビリ症例数(5192例降順93%を表示)

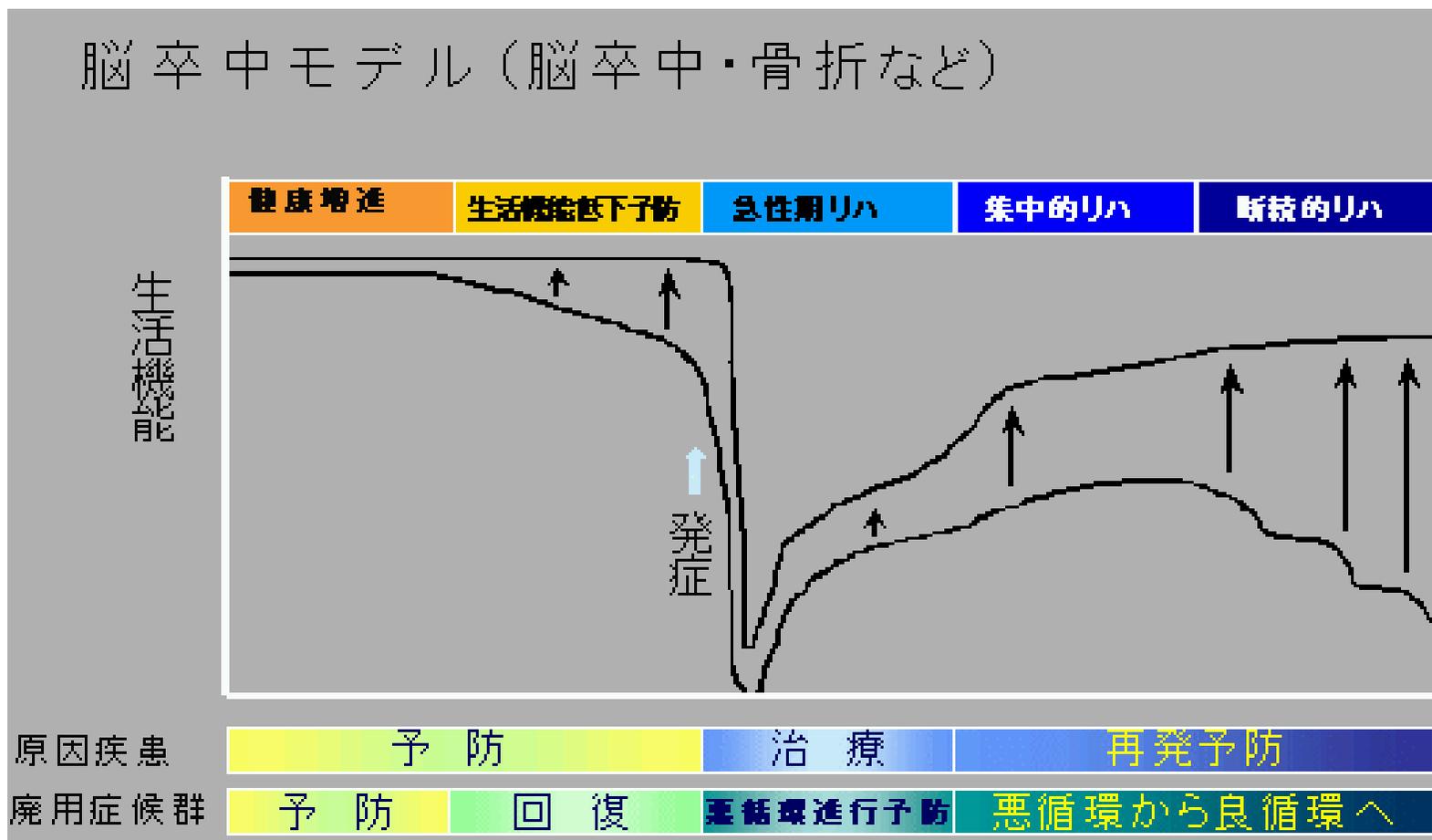
MDC6名称	リハビリ有り無し		症例数
	なし	あり	
脳梗塞	567	2,560	3,127
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	110	613	723
水頭症	50	287	337
てんかん	672	212	884
パーキンソン病	62	206	268
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	52	168	220
非外傷性硬膜下血腫	132	144	276
脳腫瘍	184	139	323
脳卒中の続発症	202	115	317
認知症	80	106	186
一過性脳虚血発作	375	76	451
基底核等の変性疾患	27	72	99
脳血管障害	356	64	420
脳脊髄の感染を伴う炎症	185	59	244
脳の障害(その他)	76	44	120

最多のリハビリあり  
は脳梗塞

神経系疾患では、  
比較的リハビリあり  
の症例が多い疾患  
は  
(脳梗塞、  
非外傷性頭蓋内  
血腫、  
水頭症、  
パーキンソン病、  
くも膜下出血・破  
裂脳動脈瘤)

# 生活機能低下の状態像

脳卒中モデル（脳卒中・骨折など）



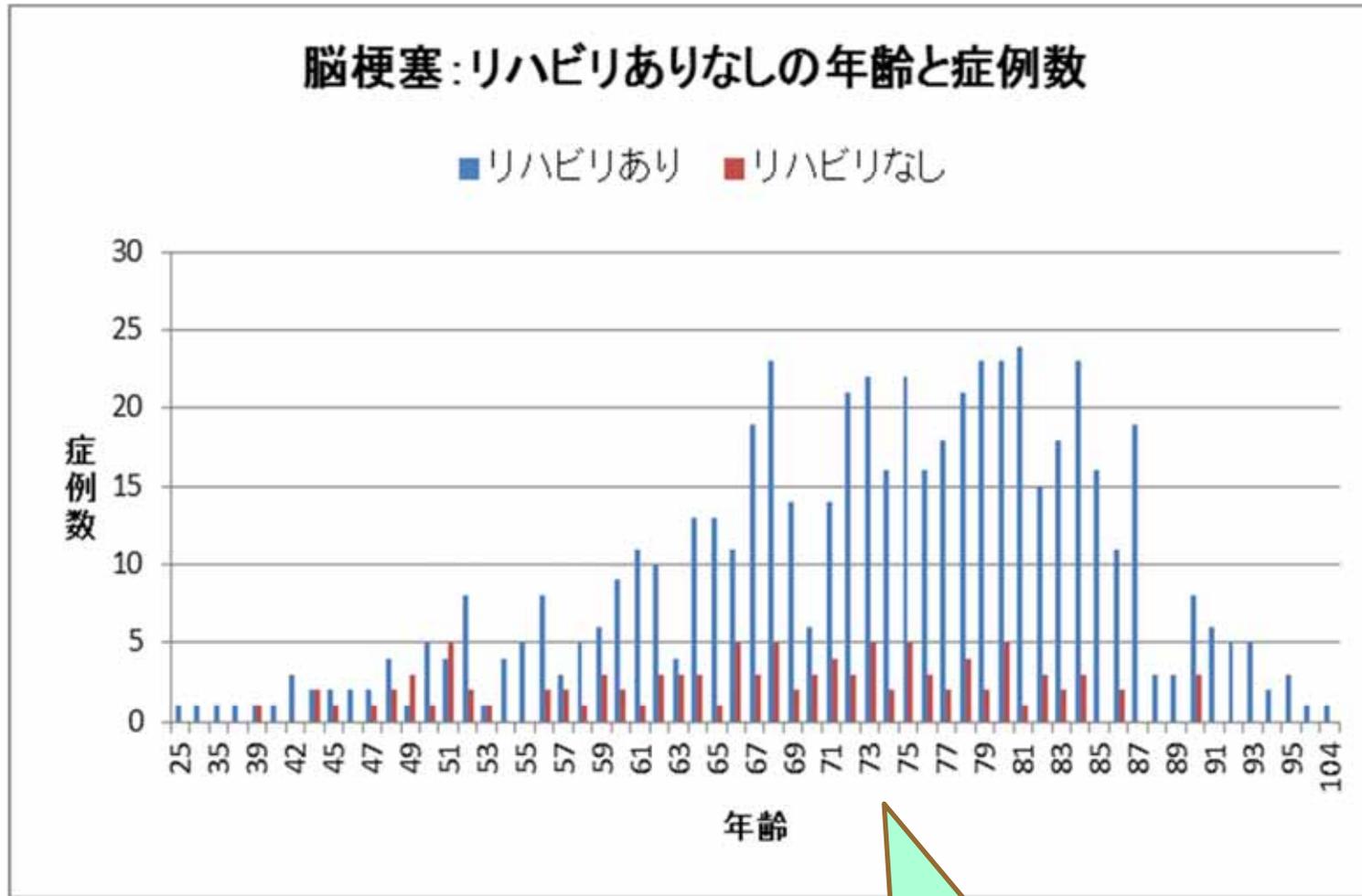
資料 「高齢者リハビリテーションのあるべき方向」 高齢者リハビリテーション研究会

# 脳梗塞の分類とリハビリありなしの症例数と入院日数

診断群分類名称	分類番号	リハビリなし		リハビリあり		症例数
		症例数	入院日数	症例数	入院日数	
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 3あり 副傷病なし	010060x099030x	170	8.77	864	16.61	1,034
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病なし	010060x099000x	239	7.06	567	15.63	806
脳梗塞(JCS10以上) 手術なし 処置等2 なし 副傷病あり	010060x199x01x	9	26.56	157	27.60	166
脳梗塞(JCS10以上) 手術なし 処置等2 3あり 副傷病あり	010060x199x31x	2	35.00	133	34.32	135
脳梗塞(JCS10以上) 手術なし 処置等2 3あり 副傷病なし	010060x199x30x	13	13.31	107	20.97	120
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 4あり 副傷病なし	010060x099040x	5	9.80	75	19.84	80
脳梗塞(JCS10以上) 手術なし 処置等2 なし 副傷病なし	010060x199x00x	41	8.27	75	18.19	116
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 3あり 副傷病なし	010060x099030x	3	17.33	71	34.21	74
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1あり 処置等2 3あり 副傷病なし	010060x099030x	12	9.08	68	19.00	80
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病なし	010060x099000x	2	30.50	54	30.35	56
脳梗塞(JCS10未満) その他の手術あり 処置等2 3あり	010060x097x00x	3	32.00	44	48.39	47
脳梗塞(JCS10未満) その他の手術あり 処置等2 なし	010060x097x00x	11	7.09	33	38.45	44
脳梗塞(JCS10以上) その他の手術あり 処置等2 3あり	010060x197x3xx			32	54.38	32
脳梗塞(JCS10以上) 手術なし 処置等2 4あり 副傷病なし	010060x199x40x			28	27.61	28
脳梗塞(JCS10未満) 動脈形成術、吻合術 頭蓋内動脈等 処置等2 3あり	010060x001x3xx	1	24.00	24	33.83	25
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 2あり 副傷病なし	010060x099020x	8	14.13	21	17.52	29
脳梗塞(JCS10未満) 経皮的脳血管形成術等 処置等2 3あり	010060x002x3xx	1	18.00	18	33.44	19
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1あり 処置等2 なし	010060x09910xx	25	3.80	16	17.81	41
脳梗塞(JCS10以上) その他の手術あり 処置等2 なし	010060x197x0xx	4	28.00	16	56.50	20
脳梗塞(JCS10未満) 動脈形成術、吻合術 頭蓋内動脈等 処置等2 なし	010060x001x0xx	4	14.00	12	20.00	16
脳梗塞(JCS10以上) 手術なし 処置等2 4あり 副傷病あり	010060x199x41x			10	39.50	10
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1あり 処置等2 4あり	010060x09914xx			10	20.20	10
脳梗塞(JCS10未満) その他の手術あり 処置等2 1あり	010060x097x1xx	2	19.00	10	77.60	12
脳梗塞(JCS10以上) 経皮的脳血管形成術等 処置等2 4あり	010060x102x4xx	1	24.00	9	35.00	10
脳梗塞(JCS10未満) 経皮的脳血管形成術等 処置等2 4あり	010060x002x4xx	1	15.00	9	31.33	10
脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1あり 処置等2 2あり	010060x09912xx	4	7.75	9	14.22	13
脳梗塞(JCS10以上) 経皮的脳血管形成術等 処置等2 3あり	010060x102x3xx			8	41.00	8
総計		567	9.04	2,560	22.47	3,127

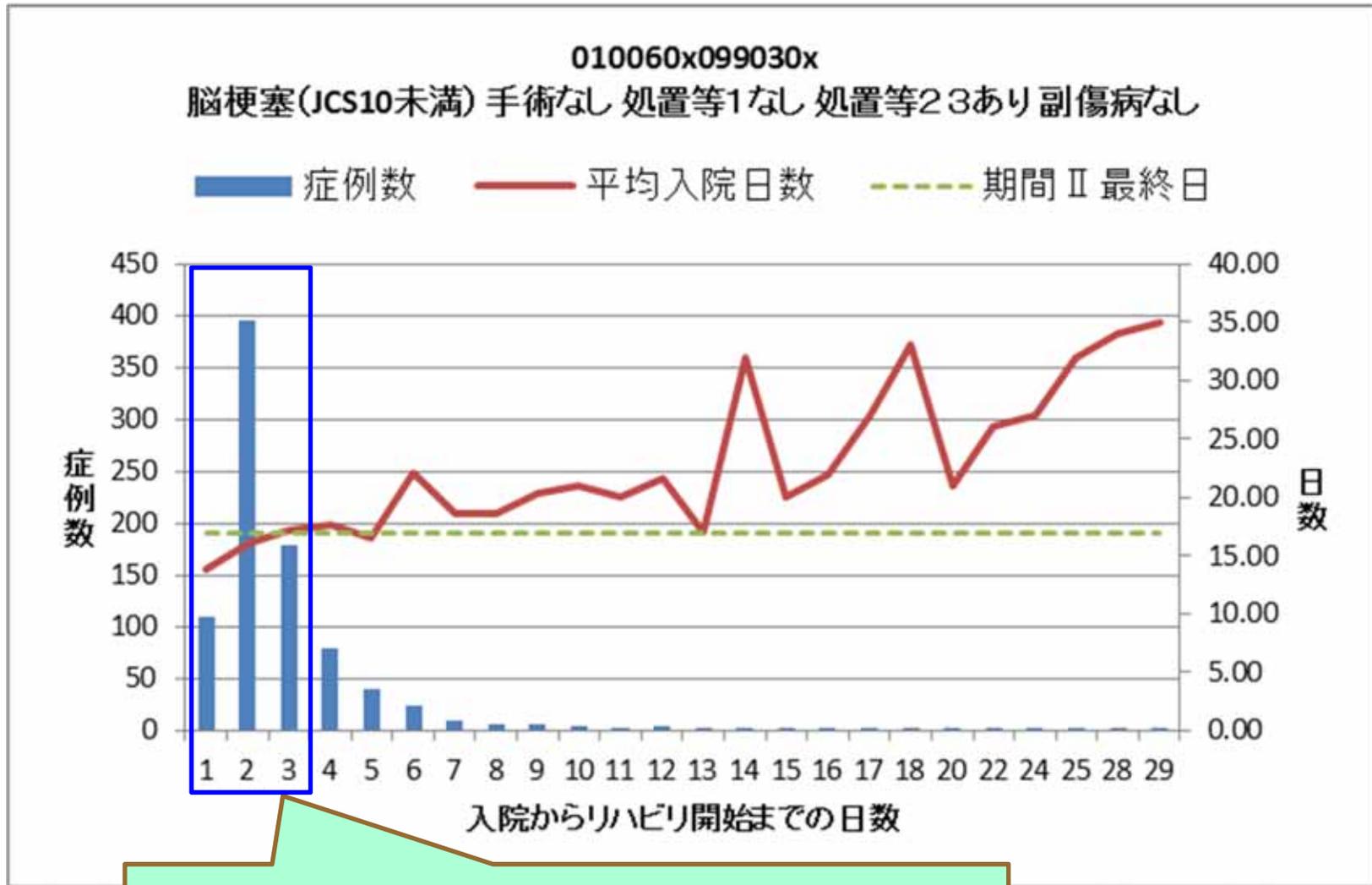
リハビリあり症例の最多は  
エダラボン投与  
次にエダラボン以外

## 脳梗塞:リハビリありなしの年齢と症例数



リハビリあり症例は  
60歳以上が多い

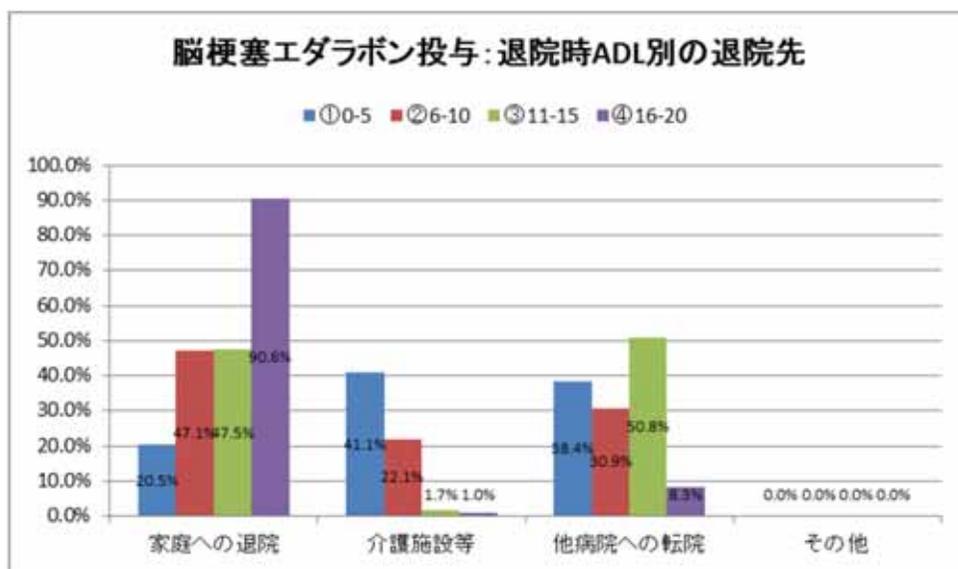
# 脳梗塞エダラボン投与: 010060x099030x脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 処置等1なし 処置等2 3あり 副傷病なし 3日以内のリハビリ開始で入院日数は短縮



入院からリハビリ開始までの日数が1~3日と早期に開始されると入院日数が短縮し、期間Ⅱ 17日での退院が可能となる

# 脳梗塞エダラボン投与の3日以内のリハビリ開始での比較 入院時ADLとリハビリ単位数の違いで効果が異なる

入院時 ADL区分	①2単位未満/日				②2～4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL
①0-5	66	0.67	9.52	8.85	105	1.31	9.83	8.51	39	1.23	13.18	11.95
②6-10	42	8.57	14.33	5.76	47	8.23	15.66	7.43	44	8.43	17.98	9.55
③11-15	38	12.74	18.97	6.24	48	12.58	19.10	6.52	25	12.44	19.20	6.76
④16-20	115	19.43	19.90	0.47	74	18.97	19.84	0.86	38	19.21	19.97	0.76
総計	261	11.97	16.25	4.28	274	9.24	15.16	5.91	146	10.00	17.42	7.42

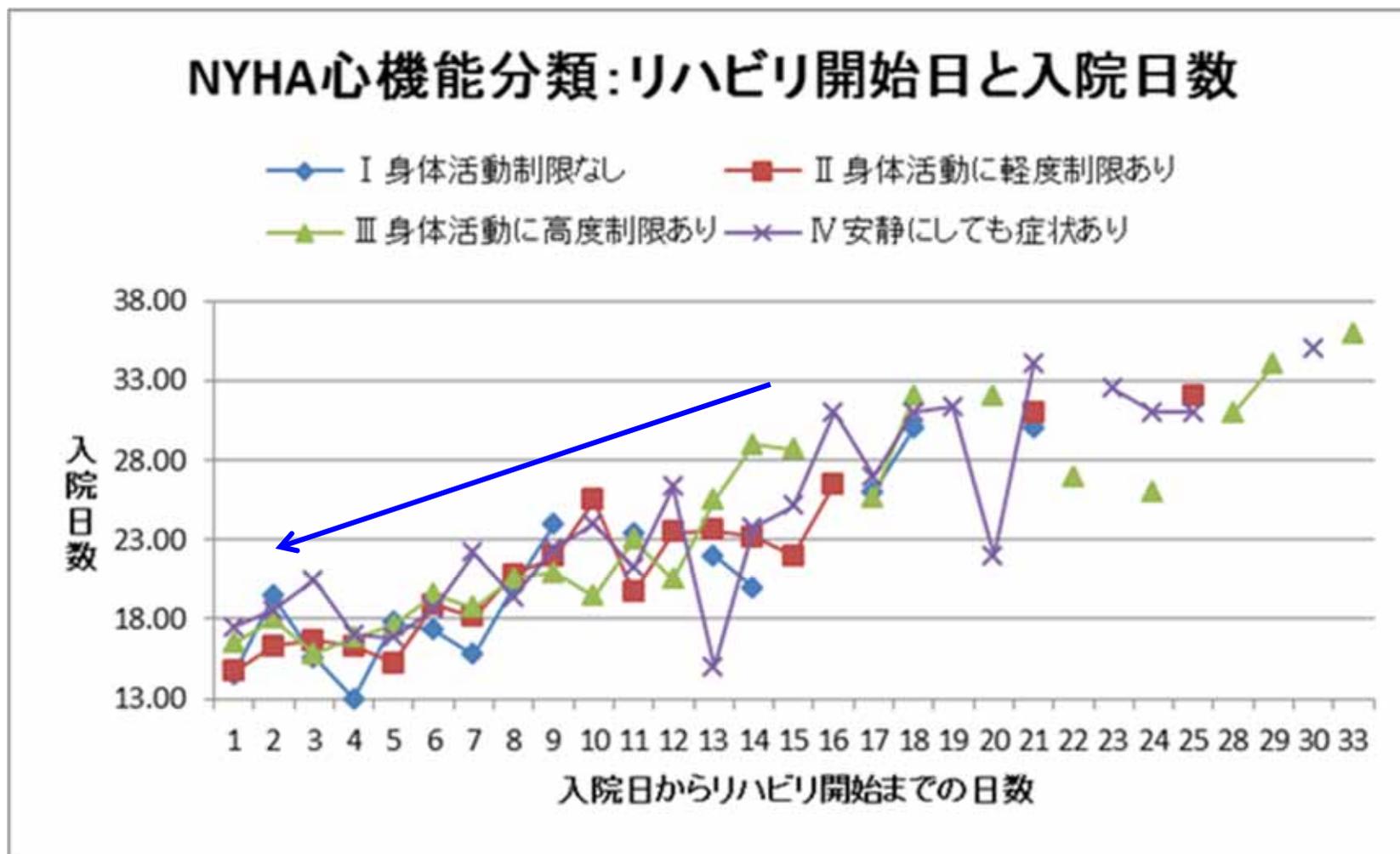


入院時ADLが低い0～15の場合には、  
③4単位以上/日リハビリ実施の改善ADLが最も高い。  
入院時ADLが高い16～20の場合には、  
②2～4単位未満/日のリハビリ実施の改善ADLが高い。  
また④16-20であれば、90.6%(左図) が家庭への退院が可能となり、4単位以上が望まれる。  
それ以下では、回復期リハあるいは在宅でのリハビリ継続が必要

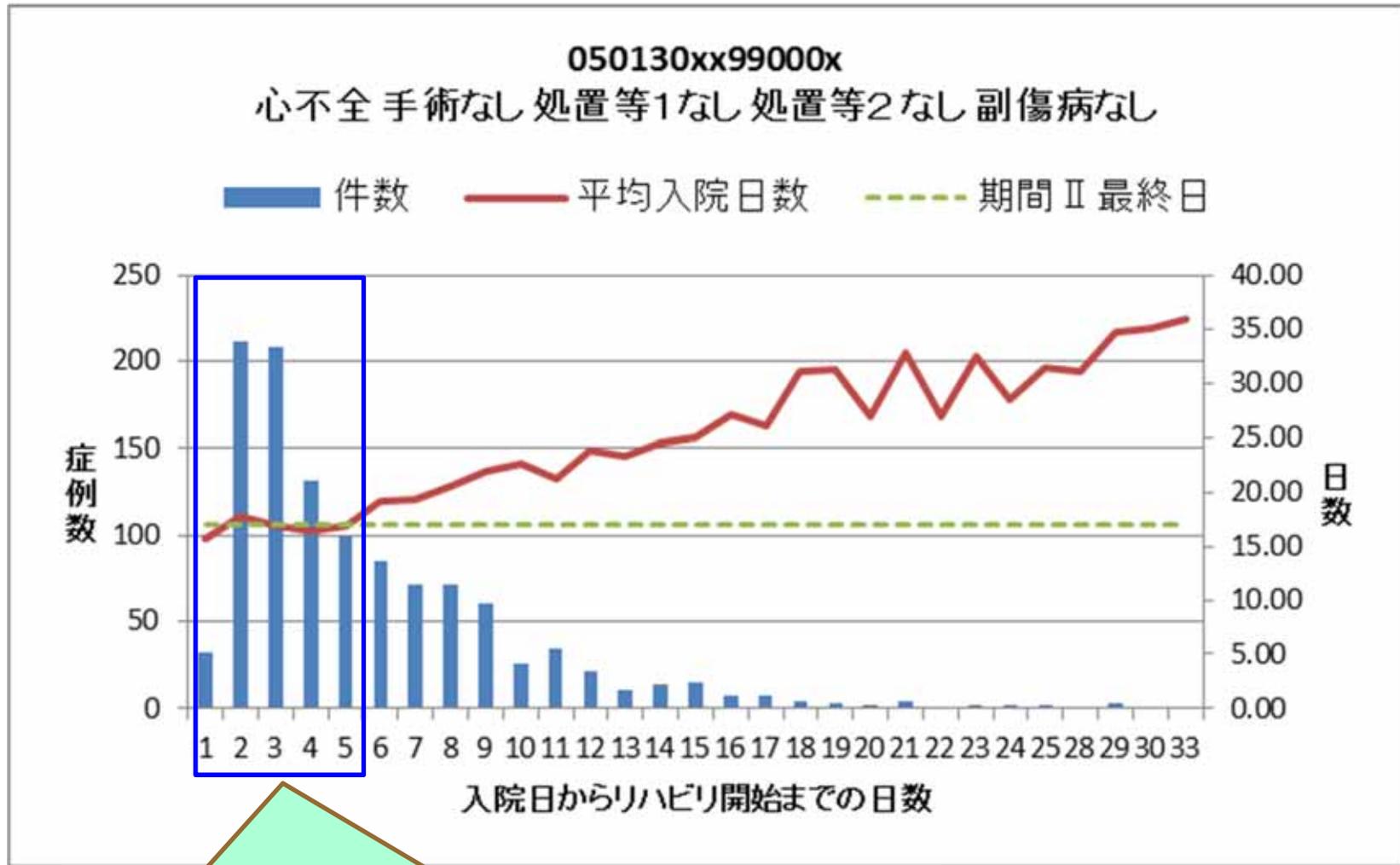
## 心不全のリハビリのありなし症例数(分類番号別)

診断群分類名称	分類番号	リハビリ有り無し		症例数
		リハビリなし	リハビリあり	
心不全 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病なし	050130xx99000x	1,225	1,130	2,355
心不全 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 なし 副傷病なし	050130xx97000x	194	194	388
心不全 手術なし 処置等11あり 処置等2 なし	050130xx9910xx	371	182	553
心不全 手術なし 処置等1なし 処置等2 2あり 副傷病なし	050130xx99020x	108	173	281
心不全 手術なし 処置等1なし 処置等2 1あり	050130xx9901xx	77	154	231
心不全 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 2あり	050130xx9702xx	56	107	163
心不全 手術なし 処置等11あり 処置等2 2あり	050130xx9912xx	82	106	188
心不全 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 1あり	050130xx9701xx	22	60	82
心不全 手術なし 処置等11あり 処置等2 1あり	050130xx9911xx	36	45	81
心不全 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病あり	050130xx99001x	7	22	29
心不全 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 なし 副傷病あり	050130xx97001x	2	8	10
心不全 冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの)等 処置等1なし、1あり 処置等2 2あり	050130xx0102xx		8	8
心不全 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 2あり	050130xx9752xx		6	6
心不全 手術なし 処置等1なし 処置等2 2あり 副傷病あり	050130xx99021x	5	5	10
心不全 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 1あり	050130xx9751xx	2	3	5
心不全 冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの)等 処置等15あり 処置等2 2あり	050130xx0152xx		1	1
心不全 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 なし	050130xx9750xx	2	1	3
	総計	2,189	2,205	4,394

## NYHA心機能分類: 早期リハビリ開始で入院日数の短縮化



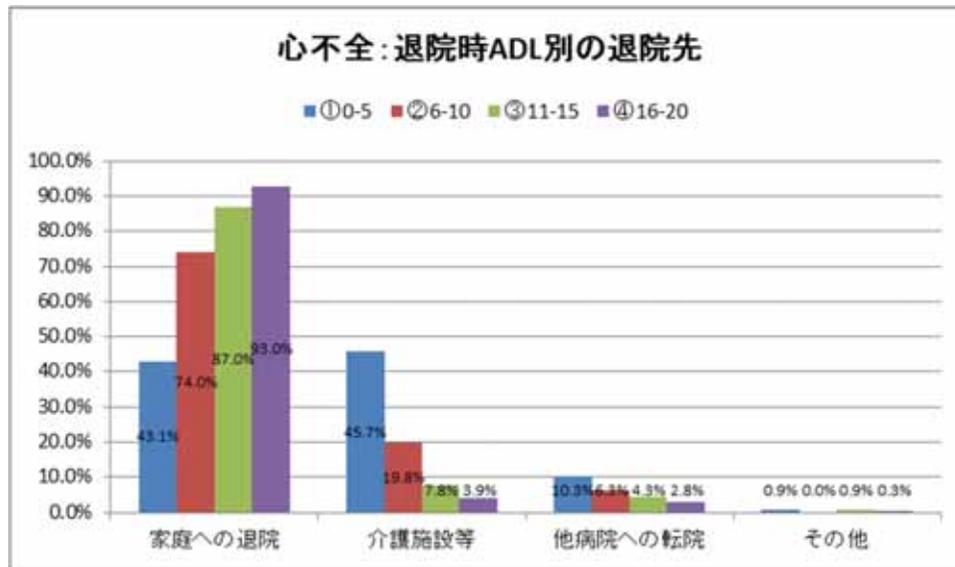
**心不全：050130xx99000x心不全 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病なし**  
**早期リハビリ開始で平均入院日数を短縮**



入院からリハビリ開始までの日数が1～5日と早期に開始されると、入院日数が短縮し、期間Ⅱの17日で退院が可能となる

# 心不全手術なし(入院時ADL ≤ 退院時ADL) : 5日以内のリハビリ開始での比較 入院時ADLとリハビリ単位数の違いで効果が異なる

入院時ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2～4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	163	0.79	6.79	5.99	72	1.15	9.51	8.36	4	0.25	8.50	8.25
②6-10	96	8.53	12.83	4.30	30	8.10	13.80	5.70	3	8.33	11.67	3.33
③11-15	74	12.55	16.49	3.93	24	12.33	16.33	4.00	4	12.00	14.50	2.50
④16-20	145	19.42	19.77	0.34	64	19.27	19.70	0.44	3	18.67	18.67	0.00
総計	478	9.82	13.44	3.62	190	9.76	14.48	4.72	14	9.29	13.07	3.79



入院時ADLが0～10の場合には、  
②2～4単位未満/日リハビリ実施の改善ADLが最も高く、  
入院時ADLが11～20の場合には、  
①2単位未満/日のリハビリ実施でも②2～4単位未満/日でもよい  
従って、  
入院時のADLスコアの差によって、リハビリ実施単位数を変えると左図のように、退院時ADLの向上が②6-10以上であれば74%以上の患者が家庭への退院となる。

## 肺炎のリハビリのありなし症例数と入院日数(分類番号別)

診断群分類名称	分類番号	リハビリ有り無し				症例数	入院日数
		あり		なし			
		症例数	入院日数	症例数	入院日数		
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)手術なし 処置等2 なし	040080x099x0xx	3,381	10.33	1,843	14.75	5,224	11.89
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)手術なし 処置等2 あり	040080x099x1xx	33	15.39	134	25.78	167	23.73
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)手術あり 処置等2 なし	040080x097x0xx	77	20.56	101	34.96	178	28.73
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上)手術あり 処置等2 あり	040080x097x1xx	4	16.00	37	61.57	41	57.12
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満) 処置等2 なし	040080x1xxx0xx	1,237	5.27	4	7.00	1,241	5.27
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満) 処置等2 あり	040080x1xxx1xx	15	7.73	1	14.00	16	8.13
総計		4,747	9.21	2,120	17.21	6,867	11.68

最多のリハビリあり症例は、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（15歳以上）手術なし 処置等2 なし（040080x099x0xx）である。  
リハビリありの症例の方がリハビリなしの入院日数よりも短い。

## 肺炎で多いのは75歳以上で市中肺炎

年齢区分	リハビリなし					リハビリあり				
	症例数	入院日数	入院時ADL	退院時ADL	ADL改善	症例数	入院日数	入院時ADL	退院時ADL	ADL改善
②15～64歳	973	8.97	17.85	18.87	1.02	110	14.22	10.42	14.35	3.94
③65～75歳未満	809	10.59	16.74	18.76	2.02	293	14.48	11.37	15.61	4.24
④75歳以上	1,720	11.02	12.18	15.03	2.85	1,557	14.88	8.56	12.25	3.69
総計	3,502	10.35	14.81	16.96	2.15	1,960	14.78	9.08	12.87	3.79

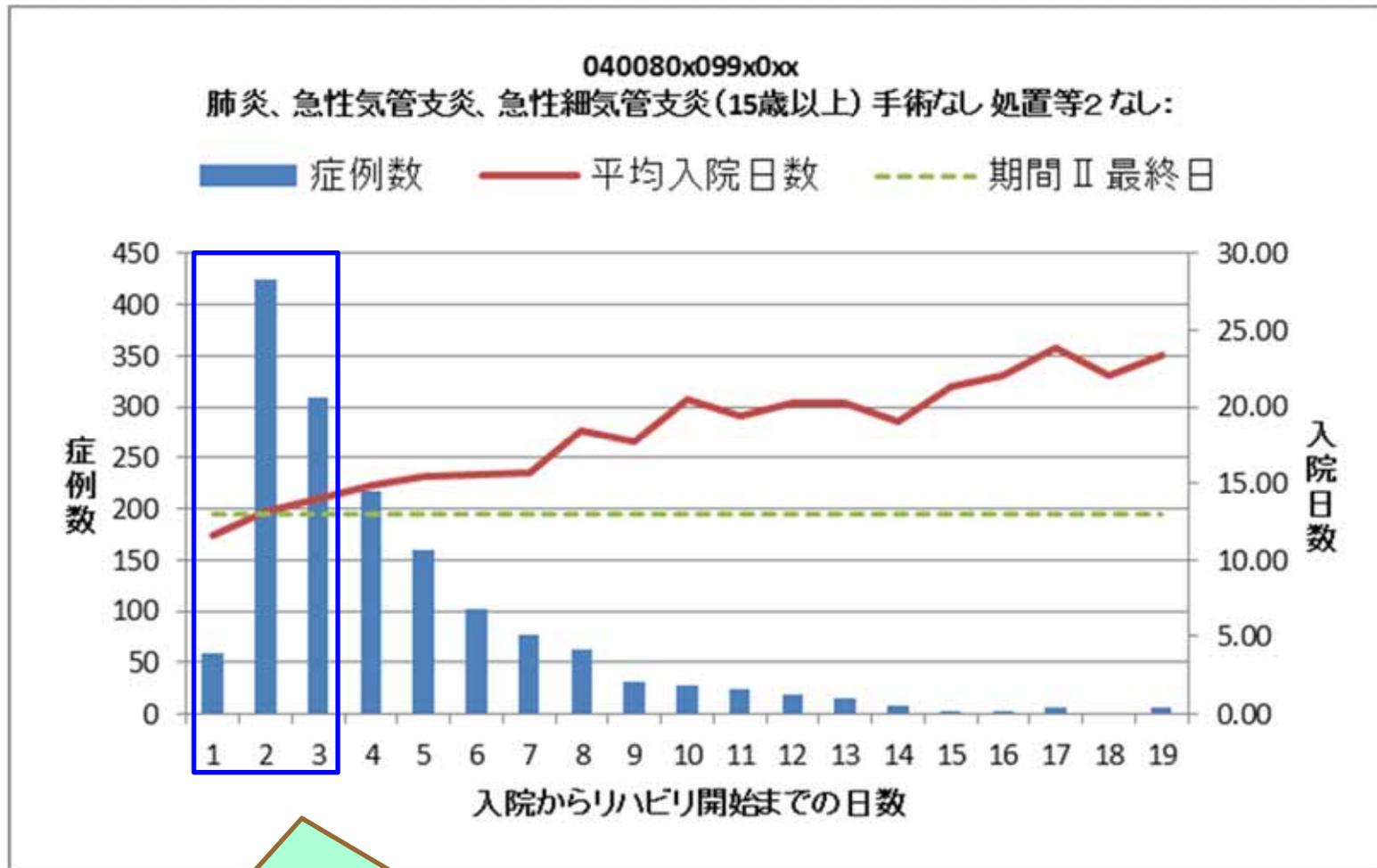
### 75歳以上の肺炎の呼吸器Hugh Jones、肺炎重症度SpO2、BUN

呼吸器Hugh_Jones	肺炎重症度分類			総計
	院内肺炎	市中肺炎	肺炎以外	
外出できない	27	636	11	674
50m以上歩けない	15	390	2	407
Ⅲ1マイル歩ける	5	155	5	165
Ⅱ健康者並みにできない	8	151	4	163
Ⅰ健康者並み症候なし	7	108	1	116
総計	62	1440	23	1525

肺炎重症度SpO2	症例数
SpO2>90%	854
SpO2<90% FiO2 35%不要	486
SpO2<90% FiO2 35%要	185
総計	1525

肺炎重症度BUN	症例数
BUN21mg/dl以下か脱水なし	953
BUN21mg/dl以上か脱水あり	572
総計	1525

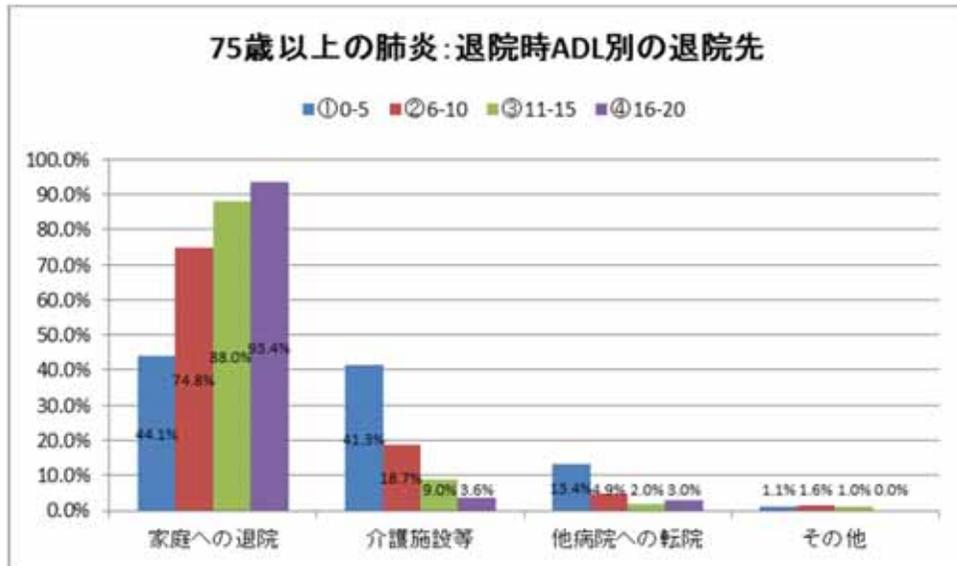
# 75歳以上の肺炎：040080x099x0xx 肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 手術なし 処置等2 なし 3日以内のリハビリ開始で平均入院日数は短縮



入院からリハビリ開始までの日数が1～3日と早期に開始されると、入院日数が短縮し、期間Ⅱの13日程度で退院が可能となる

# 肺炎75歳以上(入院時ADL≦退院時ADL):3日以内のリハビリ開始での比較 リハビリ②2~4単位未満/日で効果が高い

入院時 ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL
①0-5	213	0.85	6.06	5.22	95	1.04	7.19	6.15	10	0.80	7.10	6.30
②6-10	86	8.47	12.58	4.12	48	8.08	14.06	5.98	3	9.00	16.00	7.00
③11-15	74	13.20	16.66	3.46	34	12.88	16.88	4.00	1	12.00	20.00	8.00
④16-20	140	19.29	19.73	0.44	24	18.83	19.71	0.88	7	18.57	18.57	0.00
総計	513	8.94	12.41	3.47	201	6.85	11.97	5.11	21	8.43	12.81	4.38



②2~4単位未満/日のリハビリ実施で改善ADLが高くなる。  
また退院時ADLが高くなれば(左図)  
④16-20で93.4%  
③11-15で88.0%  
②6-10で、74.8%  
①0-5で44.1%と  
家庭への退院の促進が可能となる

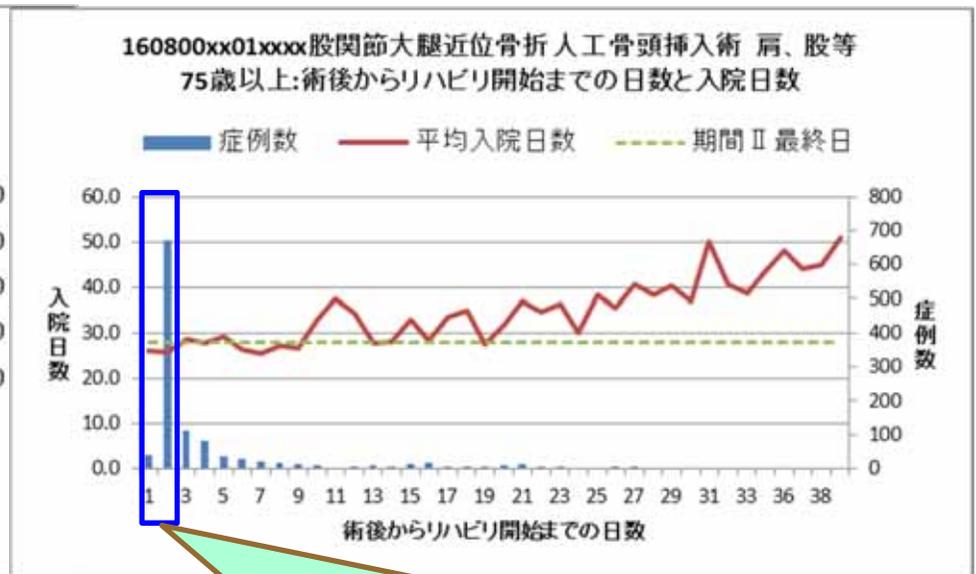
# 股関節大腿近位骨折の75歳以上は入院即・術後2日以内のリハビリ開始が在院日数短縮に効果あり

年齢区分	症例数	平均入院日数
①15歳未満	1	41.00
②15～64歳	104	24.36
③65～75歳未満	189	28.32
④75歳以上	1,203	27.59
総計	1,497	27.47

年齢では75歳以上が1203例と最も多い。(左図) 75歳以上では入院後7日以内で入院日数が短く、75歳以上では術後2日以内で入院日数が短い。(下図) に示すように期間Ⅱ最終日の28日以内の退院が可能となる。



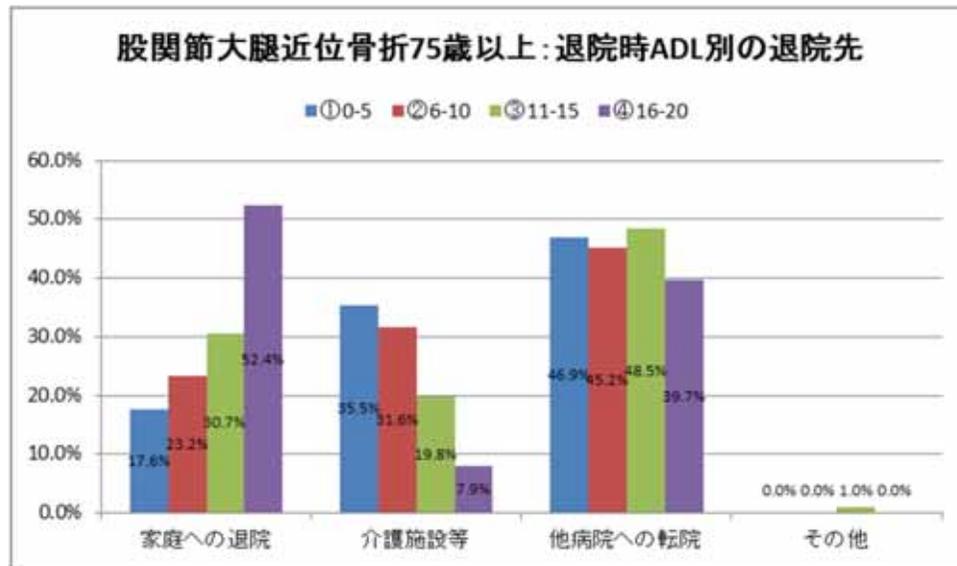
入院からリハビリ開始までの日数が1～7日と早期に開始されると、入院日数が短縮し、期間Ⅱの28日程度で退院が可能となる



術後からリハビリ開始までの日数が1～2日と早期に開始されると、入院日数が短縮し、期間Ⅱの28日程度で退院が可能となる

# 股関節大腿近位骨折75歳以上(入院時ADL ≤ 退院時ADL): 入院7日以内、術後2日以内のリハビリ開始での比較 リハビリ②2~4単位未満/日で効果が高い

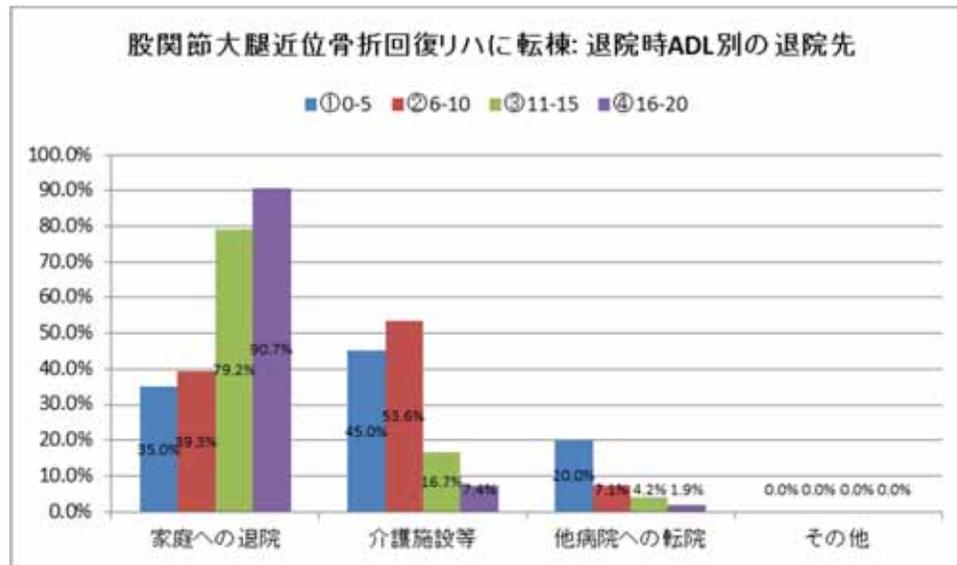
入院時ADL区分	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	352	1.01	6.61	5.61	149	1.36	9.98	8.62	10	1.30	8.80	7.50
②6-10	26	8.00	12.31	4.31	14	7.50	13.36	5.86				
③11-15	7	12.00	14.86	2.86	2	11.00	18.00	7.00				
④16-20	17	19.47	19.53	0.06	7	19.43	19.86	0.43				
総計	402	2.43	7.67	5.24	172	2.71	10.75	8.04	10	1.30	8.80	7.50



入院時ADLでは①0-5が多く、  
②2~4単位未満/日のリハビリ実施で  
改善ADLが高くなる。  
また退院時ADLが高くなれば (左図)  
④16-20で52.4%  
③11-15で30.7%  
②6-10で、23.2%  
①0-5で17.6%と  
家庭への退院の促進が可能となるが、依然として  
4~5割の患者が他病院への転院でリハビリの継続  
をしている。

# 股関節大腿近位骨折で回復期病棟に転棟しリハビリ継続のADLとリハビリ単位数

入院時ADL区分	①2単位未満/日				②2～4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	44	0.95	11.89	10.93	51	1.59	11.29	9.71	11	1.18	14.27	13.09
②6-10	5	8.60	17.20	8.60	5	7.80	16.00	8.20	1	6.00	20.00	14.00
③11-15	1	12.00	20.00	8.00	2	13.00	20.00	7.00				
④16-20	2	18.00	20.00	2.00	4	18.00	19.50	1.50				
総計	52	2.56	12.87	10.31	62	3.52	12.48	8.97	12	1.58	14.75	13.17



回復期リハビリ病棟に転棟し、リハビリを継続した場合  
 入院時ADL①0-5が退院時に11.29～14.27と一般病棟でのリハビリ実施よりも大きく向上する。  
 また③4単位以上/日のリハビリ実施で改善ADLが13.09と高くなる。  
 また退院時ADLが高くなれば（左図）  
 ④16-20で90.7%  
 ③11-15で79.2%  
 家庭への退院の促進が可能となることから、リハビリの継続が望まれる。

# 腎臓または尿路の感染症のリハビリ有り無し

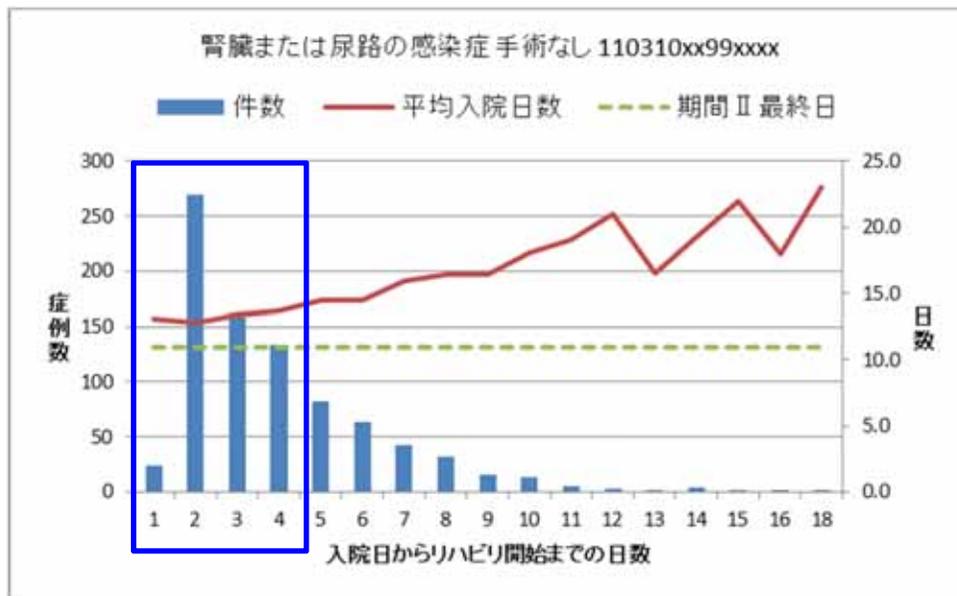
診断群分類名称	分類番号	リハビリ有り無し					
		あり			なし		
		症例数	入院時 ADL	入院日 数	症例数	入院時 ADL	入院日 数
腎臓または尿路の感染症 手術なし	110310xx99xxxx	853	4.57	13.91	1743	11.93	9.26
腎臓または尿路の感染症 その他の手術あり 副傷病なし	110310xx97xx0x	34	4.12	27.79	69	12.64	14.91
腎臓または尿路の感染症 経皮的腎(腎盂)瘻造設術等 副傷病なし	110310xx01xx0x	17	8.18	18.06	77	13.68	10.73
腎臓または尿路の感染症 その他の手術あり 副傷病あり	110310xx97xx1x	22	3.68	39.50	11	6.55	26.64
腎臓または尿路の感染症 経皮的腎(腎盂)瘻造設術等 副傷病あり	110310xx01xx1x	12	3.67	21.08	16	13.25	15.06
総計		938	4.59	15.18	1916	12.00	9.67



リハビリありでは、入院時  
ADLが低く、入院日数も長い

80歳以上の  
高齢者が多い

# 腎臓または尿路の感染症の4日以内のリハビリ開始で日数短縮

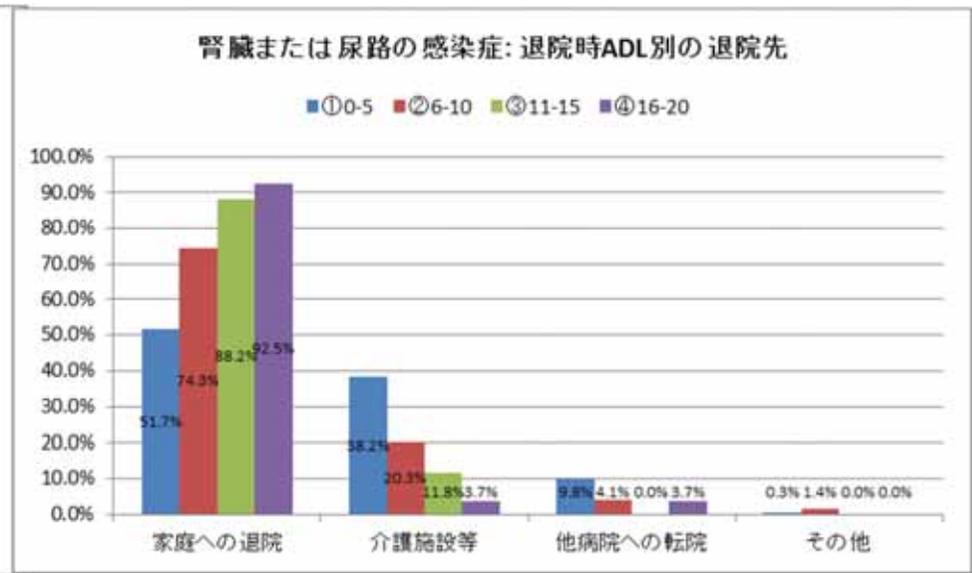
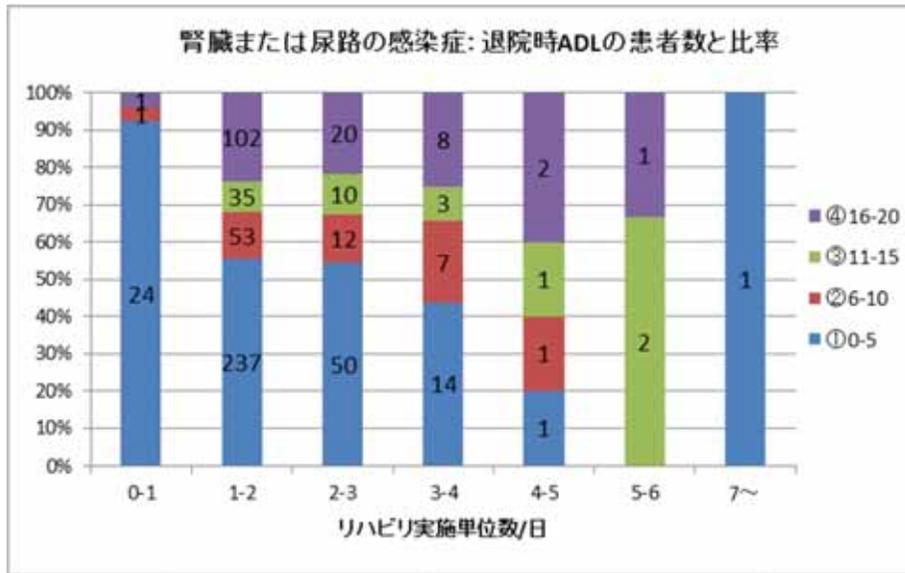


4日以内のリハビリ開始で入院日数は短縮するが、期間IIの日数は超える

4日以内のリハビリ開始で入院時ADLが低い場合には2~4単位未満/日あるいは4単位以上/日に増やすと改善ADLは向上する

入院時 ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	331	0.48	3.26	2.79	90	0.79	4.14	3.36	6	1.67	11.00	9.33
②6-10	43	8.60	13.14	4.53	12	8.00	13.33	5.33	1	6.00	15.00	9.00
③11-15	32	12.53	16.66	4.13	7	11.43	15.29	3.86	1	11.00	13.00	2.00
④16-20	47	19.57	19.77	0.19	15	19.40	19.67	0.27	1	18.00	18.00	0.00
総計	453	4.08	6.86	2.78	124	4.34	7.54	3.20	9	5.00	12.44	7.44

# 腎臓または尿路の感染症の4日以内のリハビリ開始 退院時ADL vs リハビリ実施単位数/日と退院先



リハビリ実施単位数/日が増え  
ると退院時ADLの向上した患者の比率が高まる

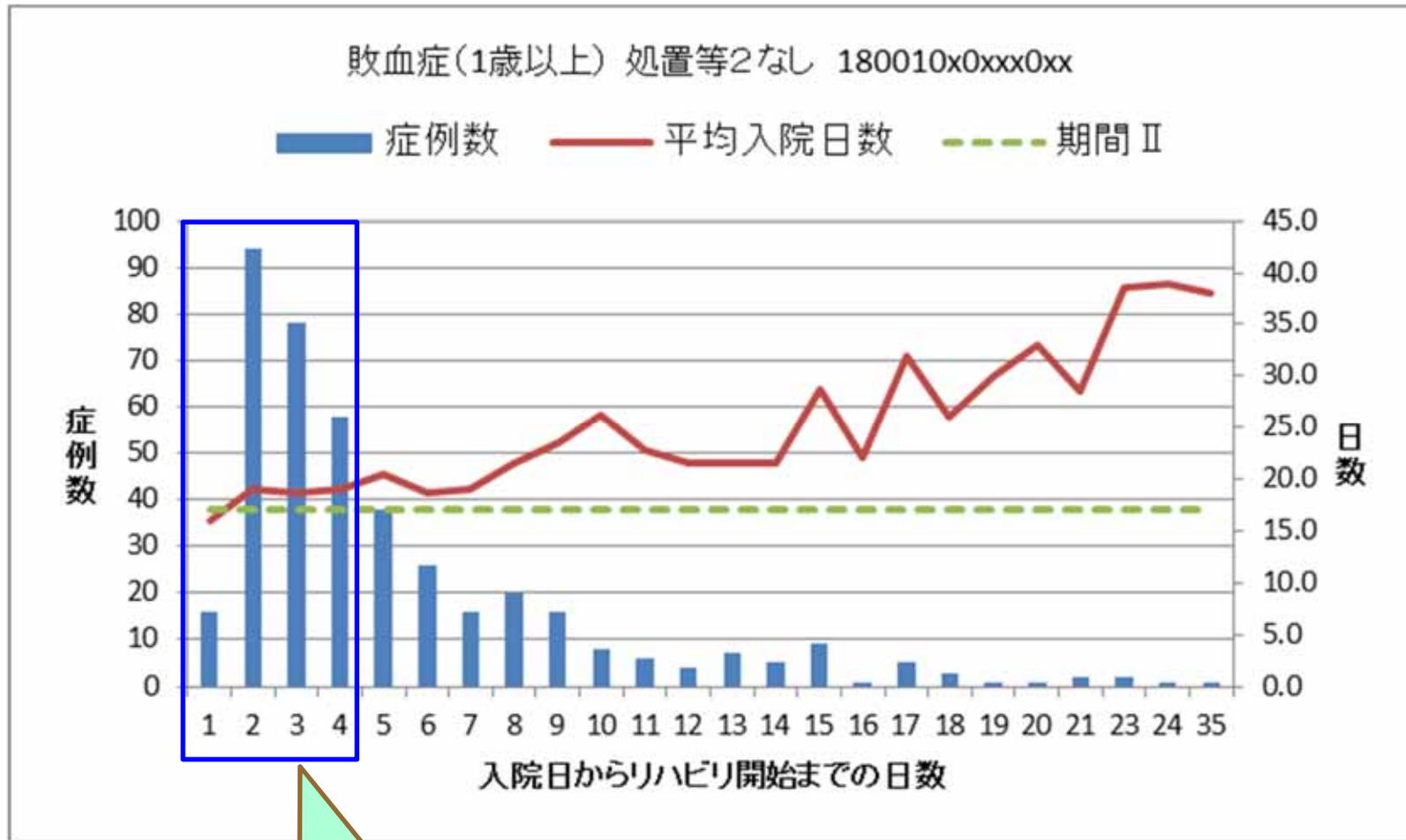
退院時ADLが6以上なら74.3%以上の患者が家庭への退院が可能

## 敗血症のリハビリ有り無しのADL

診断群分類名称	分類番号	リハビリあり					リハビリなし				
		件数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	入院 日数	件数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	入院 日数
敗血症(1歳以上) 処置等2 なし	180010x0xxx0xx	418	4.15	9.51	5.36	20.22	491	10.19	14.26	4.08	14.29
敗血症(1歳以上) 処置等2 2あり	180010x0xxx2xx	206	2.87	8.53	5.66	37.63	74	7.77	11.03	3.26	27.38
敗血症(1歳以上) 処置等2 3あり	180010x0xxx3xx	67	3.45	11.67	8.22	51.79	16	13.25	17.63	4.38	29.50
敗血症(1歳以上) 処置等2 1あり	180010x0xxx1xx	19	4.89	13.89	9.00	25.79	28	11.32	17.61	6.29	17.43
敗血症(1歳未満) 処置等2 なし	180010x1xxx0xx						33	0.61	0.67	0.06	4.33
総計		710	3.73	9.55	5.82	28.40	642	9.54	13.42	3.88	15.80

リハビリありでは、なしに比べて、入院時ADLが低く、改善ADLも向上している。よりADLの低い患者に対してリハビリを実施している。

# 敗血症の入院4日以内のリハビリ開始で入院日数は短縮



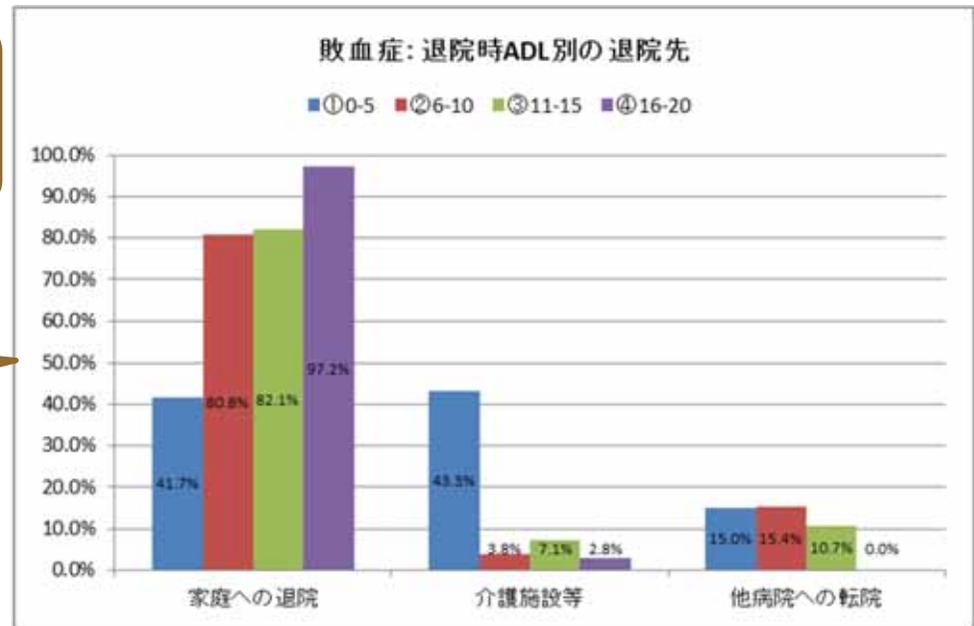
入院から4日以内のリハビリ開始では、  
期間Ⅱを超えるが、入院日数が短い

# 敗血症の入院4日以内のリハビリ開始とADL改善

入院時 ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	139	0.39	4.67	4.28	41	0.59	7.46	6.88	1	0.00	11.00	11.00
②6-10	19	8.26	14.16	5.89	10	8.50	15.30	6.80				
③11-15	10	12.30	18.40	6.10	5	12.00	16.20	4.20	1	14.00	14.00	0.00
④16-20	17	19.41	19.94	0.53	2	17.00	20.00	3.00	1	16.00	18.00	2.00
総計	185	3.59	7.79	4.20	58	3.50	10.00	6.50	3	10.00	14.33	4.33

入院時ADLが0-5の場合にはリハビリを2~4単位未満/日で実施すると改善ADLが向上する

退院時ADLが6以上になると、80.8%以上が家庭への退院となる。



早期リハビリ開始で入院日数の短縮に効果がある

入院時ADLが低い患者にリハビリ単位数/日を増やすとADL改善に効果がある

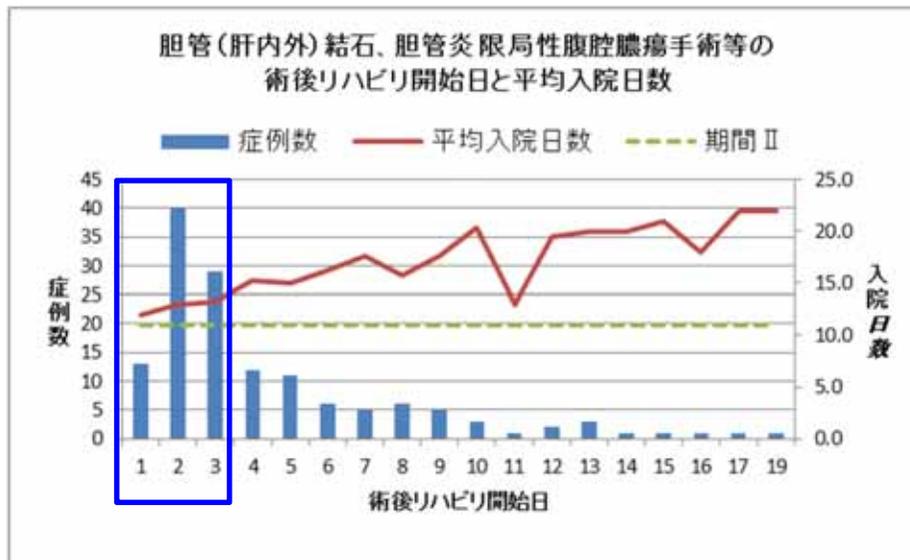
胆管(肝内外)結石、胆管炎

# 胆管(肝内外)結石、胆管炎

診断群分類名称	リハビリ有り無し						総計		
	リハビリなし			リハビリあり			年齢	症例数	平均入院日数
	年齢	症例数	平均入院日数	年齢	症例数	平均入院日数			
胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置等2 なし 副傷病なし	73.6	1,713	9.8	84.5	143	14.5	74.4	1,856	10.2
胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置等2 なし 副傷病あり	78.9	110	14.5	83.8	68	19.1	80.8	178	16.2
胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置等2 あり	72.3	23	18.3	80.0	25	42.4	76.3	48	30.8
胆管(肝内外)結石、胆管炎 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置等1あり 処置等2 なし	64.9	94	17.5	74.1	15	24.3	66.2	109	18.4
胆管(肝内外)結石、胆管炎 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病なし	68.5	48	13.6	80.1	11	19.0	70.7	59	14.6
胆管(肝内外)結石、胆管炎 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置等1なし 処置等2 あり	64.8	4	18.0	82.2	6	23.5	75.2	10	21.3
胆管(肝内外)結石、胆管炎 その他の手術あり 処置等2 なし 副傷病なし	68.8	22	14.3	79.0	4	20.0	70.3	26	15.2
胆管(肝内外)結石、胆管炎 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置等1あり 処置等2 あり	59.0	4	24.8	86.0	3	50.3	70.6	7	35.7
胆管(肝内外)結石、胆管炎 肝切除術 部分切除等 処置等1あり 処置等2 なし	47.0	2	43.5	65.5	2	33.0	56.3	4	38.3
胆管(肝内外)結石、胆管炎 その他の手術あり 処置等2 あり	70.0	2	23.0	94.5	2	51.5	82.3	4	37.3
胆管(肝内外)結石、胆管炎 その他の手術あり 処置等2 なし 副傷病あり	73.0	1	14.0	81.5	2	29.5	78.7	3	24.3
胆管(肝内外)結石、胆管炎 肝切除術 部分切除等 処置等1あり 処置等2 あり	54.0	1	47.0	84.0	1	39.0	69.0	2	43.0
胆管(肝内外)結石、胆管炎 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病あり	76.0	4	24.0	79.0	1	24.0	76.6	5	24.0
胆管(肝内外)結石、胆管炎 肝切除術 部分切除等 処置等1なし 処置等2 なし	52.0	3	29.7	70.0	1	22.0	56.5	4	27.8
胆管(肝内外)結石、胆管炎 肝切除術 部分切除等 処置等1なし 処置等2 あり	81.0	1	12.0				81.0	1	12.0
総計	73.2	2,032	10.9	82.9	284	20.0	74.4	2,316	12.0

より入院が長期化しやすい  
高齢者にリハビリを提供

## 胆管(肝内外)結石、胆管炎:術後3日以内でリハビリ開始で日数短縮

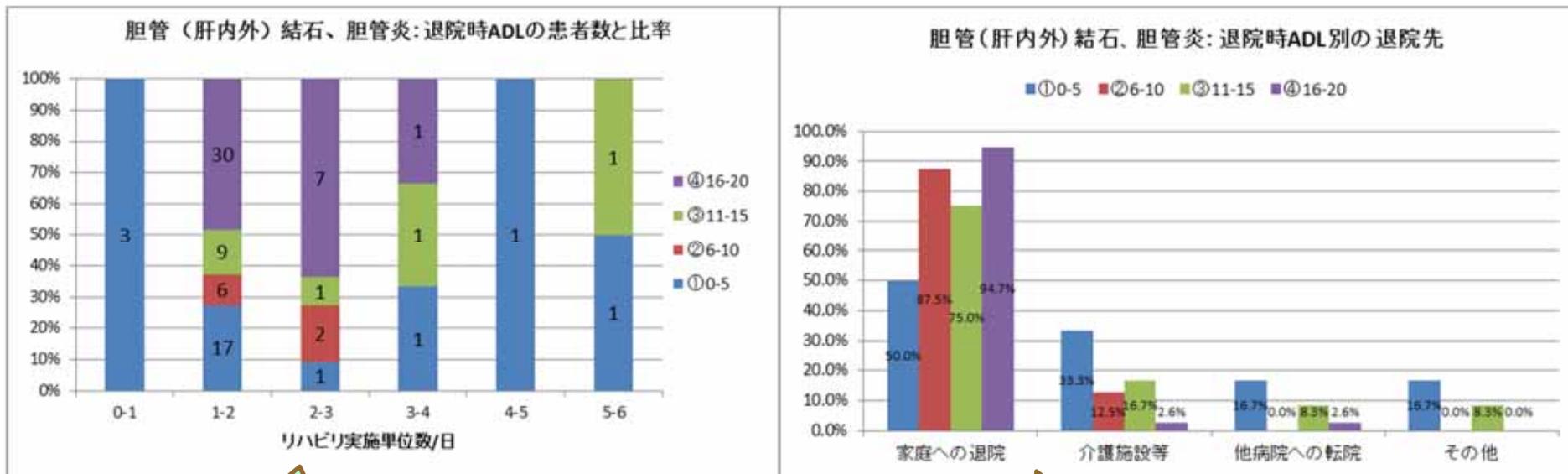


術後3日以内のリハビリ開始で入院日数は短縮するが、期間IIの日数は超える

術後3日以内のリハビリ開始で入院時ADLが0-5は2~4単位未満/日だと改善ADLが向上する

入院時ADL 区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	32	0.81	6.25	5.44	6	0.33	11.67	11.33	3	2.00	7.33	5.33
②6-10	5	8.40	12.20	3.80	2	10.00	14.00	4.00				
③11-15	7	13.14	15.14	2.00	2	11.50	11.50	0.00				
④16-20	21	18.81	19.71	0.90	4	19.25	19.25	0.00				
総計	65	8.54	12.02	3.48	14	8.71	14.14	5.43	3	2.00	7.33	5.33

# 胆管(肝内外)結石、胆管炎:術後3日以内にリハビリ開始 退院時ADLvsリハビリ実施単位数/日と退院先



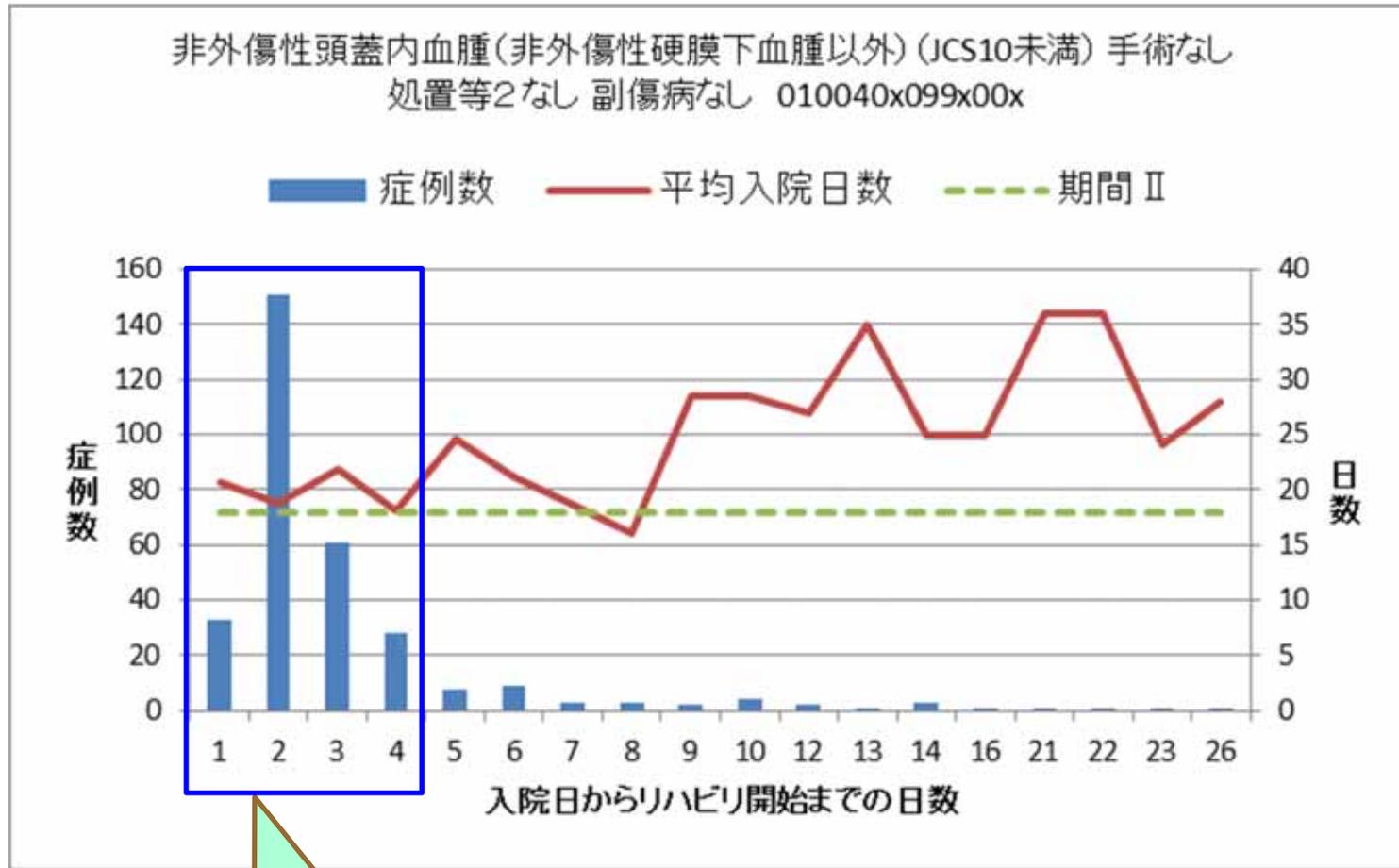
リハビリ実施単位数/日が増えたと退院時ADLの向上した患者の比率が高まるが2-3単位/日程度。

退院時ADLが6以上なら75%以上の患者が家庭への退院が可能

# 非外傷性頭蓋内血腫

診断群分類名称	分類番号	リハビリあり					リハビリなし				
		件数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	入院日 数	件数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	入院日 数
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし、処置等2なし、副傷病なし	010040x099x00x	313	5.07	12.80	7.73	20.26	81	15.30	18.07	2.78	7.21
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 手術なし、処置等2なし、副傷病なし	010040x199x00x	69	0.77	6.48	5.71	28.13	6	3.33	3.83	0.50	10.33
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし、処置等2なし、副傷病あり	010040x099x01x	44	0.61	4.25	3.64	38.86					
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 手術なし、処置等2なし、副傷病あり	010040x199x01x	36	0.11	2.31	2.19	40.42	6	1.00	6.67	5.67	41.67
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 脳血管内手術+脳動静脈奇形摘出術等 処置等2あり	010040x101x1xx	36	0.14	3.89	3.75	46.47					
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) そ の他の手術あり 処置等2なし	010040x097x0xx	22	3.82	6.91	3.09	42.82	6	13.33	13.33	0.00	7.83
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 脳血管内手術+脳動静脈奇形摘出術等 処置等2なし	010040x001x0xx	18	2.83	9.50	6.67	34.22	1	20.00	20.00	0.00	13.00
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 脳血管内手術+脳動静脈奇形摘出術等 処置等2なし	010040x101x0xx	18	0.56	6.11	5.56	31.17	1	0.00	20.00	20.00	18.00
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし、処置等2あり	010040x099x1xx	15	4.00	8.00	4.00	33.20	2	10.00	10.00	0.00	9.50
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) そ の他の手術あり 処置等2なし	010040x197x0xx	14	0.00	1.93	1.93	50.21	3	4.00	6.67	2.67	10.33
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 脳血管内手術+脳動静脈奇形摘出術等 処置等2あり	010040x001x1xx	10	0.00	4.90	4.90	48.60	1	0.00	2.00	2.00	51.00
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 穿頭脳室ドレナージ術等 処置等2なし	010040x102x0xx	7	0.00	4.14	4.14	41.43	1	0.00	0.00	0.00	48.00
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 穿頭脳室ドレナージ術等 処置等2あり	010040x102x1xx	4	0.00	0.00	0.00	68.00					
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) そ の他の手術あり 処置等2あり	010040x197x1xx	3	0.00	6.67	6.67	71.00					
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 穿頭脳室ドレナージ術等 処置等2なし	010040x002x0xx	3	1.67	5.33	3.67	30.67					
非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) そ の他の手術あり 処置等2あり	010040x097x1xx	1	0.00	0.00	0.00	14.00	2	10.00	11.00	1.00	20.50
総計		613	3.08	9.07	5.99	29.05	110	12.88	15.55	2.67	10.58

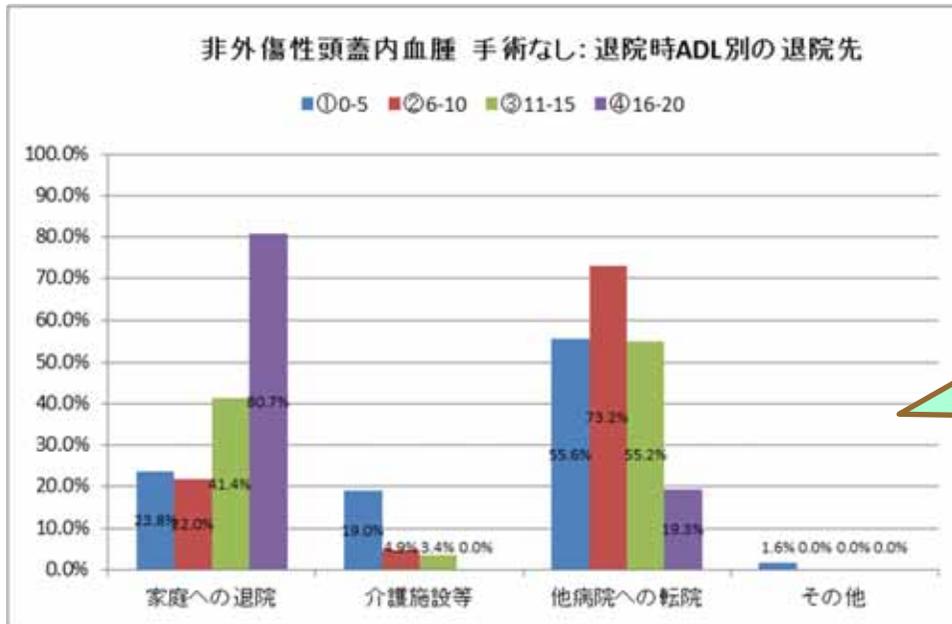
# 非外傷性頭蓋内血腫で4日以内のリハビリ開始は日数短縮に効果



入院から4日以内のリハビリ開始では、  
期間Ⅱを超えるが、入院日数が短い

# 非外傷性頭蓋内血腫で4日以内のリハビリ開始のADL改善

入院時 ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	55	0.71	9.53	8.82	80	1.01	9.60	8.59	41	1.17	11.71	10.54
②6-10	9	9.11	18.00	8.89	25	7.92	15.88	7.96	8	9.38	19.38	10.00
③11-15	9	13.11	19.56	6.44	13	12.62	17.85	5.23	4	12.50	17.50	5.00
④16-20	11	19.64	20.00	0.36	14	19.29	19.93	0.64	4	19.25	20.00	0.75
総計	84	5.42	12.88	7.46	132	5.40	12.70	7.30	57	4.39	13.77	9.39



入院時ADLが0-5の場合にはリハビリを4単位以上/日で実施すると改善ADLが向上する

退院時ADLが16以上になると、80.7%以上が家庭への退院となり、それ以外は他病院への転院でのリハビリの継続となる。従って、集中リハビリで16以上に上がらなければ、回復期リハビリへの転院を検討する。

**早期リハビリ開始で入院日数の短縮に効果がある**

**リハビリ単位数/日を増加してもADL改善に差がない**

**乳房の悪性腫瘍**

**2型糖尿病**

**誤嚥性肺炎**

**急性心筋梗塞**

**胃の悪性腫瘍**

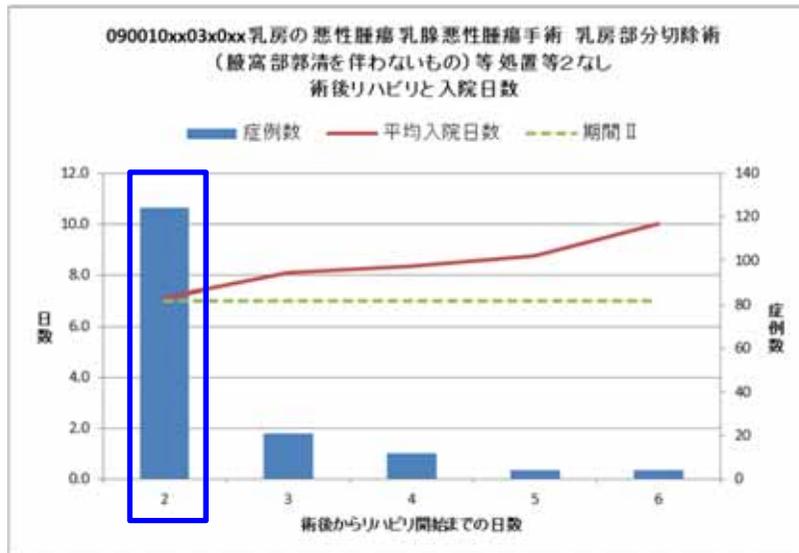
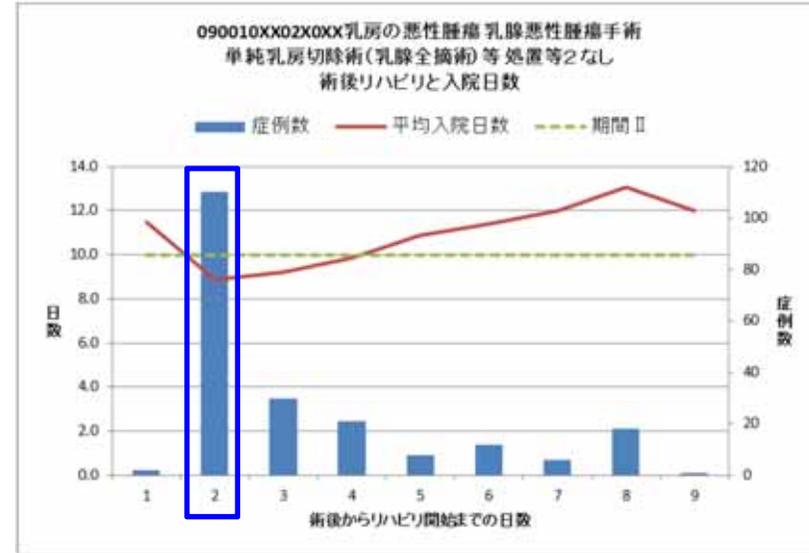
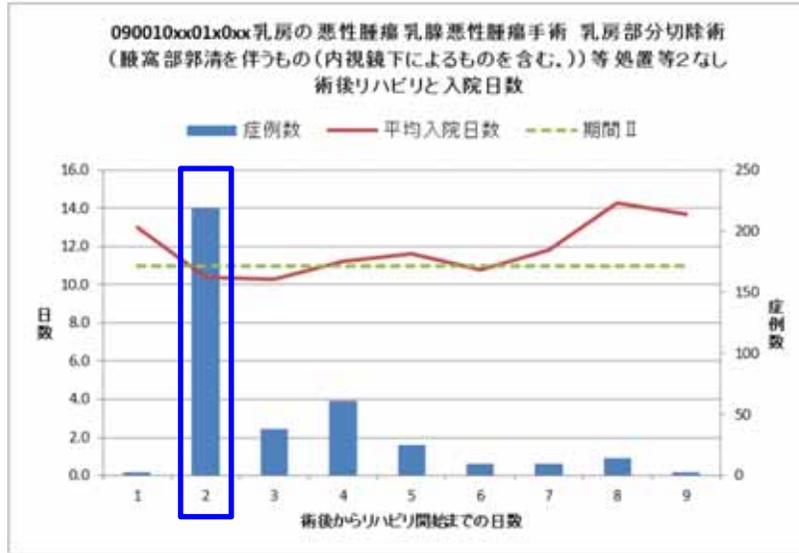
**胸椎、腰椎以下骨折損傷**

# 乳房の悪性腫瘍リハビリのありなし症例数(分類番号別)

## リハビリ実施は術後の症例

診断群分類名称	分類番号	リハビリ有り無し			
		あり		なし	
		症例数	平均入院日数	症例数	平均入院日数
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 処置等2 なし	090010xx01x0xx	386	10.81	154	10.24
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 単純乳房切除術(乳腺全摘術)等 処置等2 なし	090010xx02x0xx	208	9.74	464	10.15
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの) 処置等2 なし	090010xx03x0xx	166	7.45	561	7.94
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 処置等2 3あり	090010xx01x3xx	17	15.71	12	11.50
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 2あり	090010xx99x2xx	15	36.40	164	34.68
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 3あり 副傷病なし	090010xx99x30x	13	15.08	104	6.48
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの) 処置等2 3あり	090010xx03x3xx	12	11.58	23	7.83
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 4あり 副傷病なし	090010xx99x40x	12	9.00	468	6.36
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 なし 副傷病なし	090010xx99x00x	10	11.10	111	6.48
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 単純乳房切除術(乳腺全摘術)等 処置等2 3あり	090010xx02x3xx	9	11.67	22	11.09
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 なし 副傷病あり	090010xx99x01x	9	21.00	9	15.11
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 3あり 副傷病あり	090010xx99x31x	5	14.20	9	11.67
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 なし	090010xx97x0xx	3	4.00	121	4.95
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 3あり 副傷病あり	090010xx97x31x	3	28.67	11	13.36
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 処置等2 1あり	090010xx01x1xx	2	9.50		
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 8あり 副傷病あり	090010xx97x81x	2	30.00		
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 単純乳房切除術(乳腺全摘術)等 処置等2 1あり	090010xx02x1xx	2	13.50	3	9.00
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 7あり	090010xx99x7xx	2	10.00	23	7.91
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 6あり	090010xx99x6xx	2	4.00	222	4.37
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 処置等2 6あり	090010xx01x6xx	1	16.00		
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 3あり 副傷病なし	090010xx97x30x	1	12.00	13	10.00
乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの) 処置等2 1あり	090010xx03x1xx	1	5.00	2	8.50
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 4あり 副傷病あり	090010xx99x41x	1	12.00	12	18.17
乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置等2 1あり	090010xx99x1xx	1	20.00	1	4.00
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 2あり	090010xx97x2xx			1	27.00
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 1あり	090010xx97x1xx			1	2.00
乳房の悪性腫瘍 動脈(皮)弁及び筋(皮)弁を用いた乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの	090010xx04xxxx			7	8.71
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 5あり	090010xx97x5xx			5	12.00
乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 8あり 副傷病なし	090010xx97x80x			2	8.00
総計		883	10.72	2525	9.53

# 乳がん：術後2日リハ開始なら期間Ⅱ以内の日数短縮に効果あり



乳房の悪性腫瘍では  
乳房部分切除・単純乳房切除  
では腋窩部郭清ありなしでも  
術後2日からリハビリ開始が多く  
入院日数の短縮には効果あり。

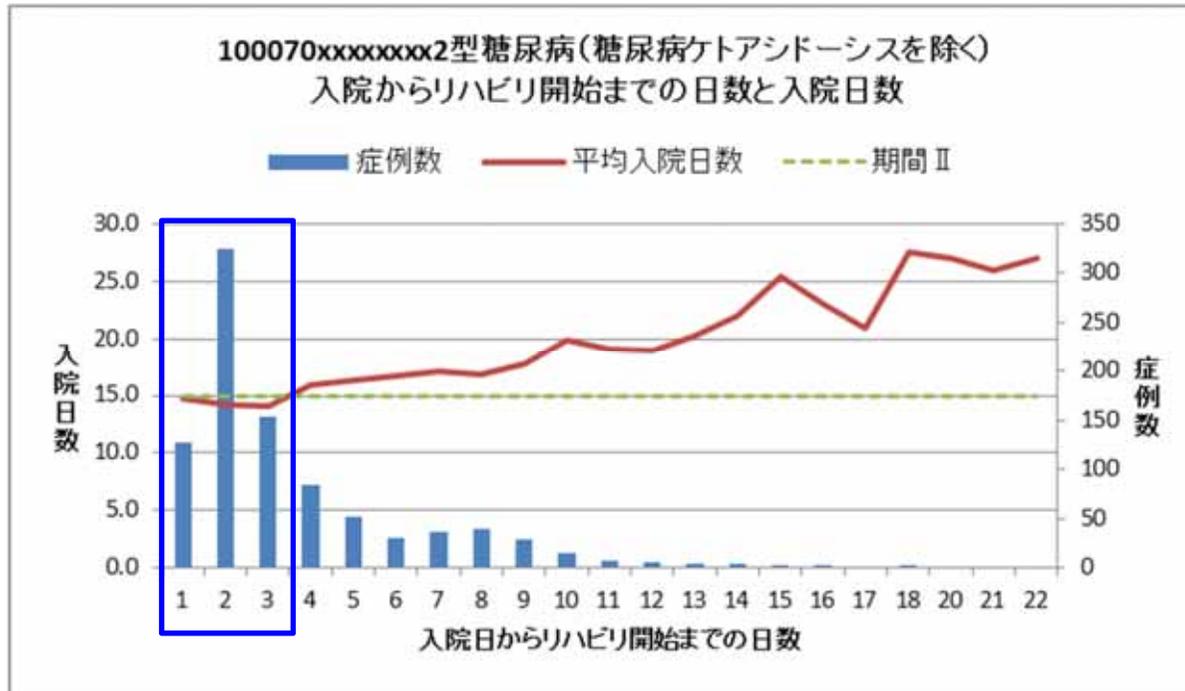
# 乳房の悪性腫瘍の術後2日からのリハビリ開始の単位と改善ADL

090010xx01x0xx乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。））等 処置等2 なし  
 090010XX02X0XX乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 単純乳房切除術（乳腺全摘術）等 処置等2 なし  
 090010xx03x0xx乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）等 処置等2 なし

入院時ADL区分	①2単位未満/日				②2～4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	1	2.00	2.00	0.00								
②6-10	1	9.00	9.00	0.00	1	9.00	12.00	3.00				
③11-15	2	13.00	15.00	2.00	1	13.00	13.00	0.00				
④16-20	418	19.96	19.97	0.01	110	19.98	20.00	0.02	3	20.00	20.00	0.00
総計	422	19.86	19.88	0.02	112	19.82	19.87	0.04	3	20.00	20.00	0.00

ほとんどの症例で入院時ADLは20弱で、単位数/日を増加しても退院時ADLに大きな差はない。  
 従って、乳房の悪性腫瘍では、術後2日からのリハビリ開始が効果があり、2単位未満/日のリハビリ実施でよいと考えられる。

## 2型糖尿病:3日以内のリハビリ開始で入院日数は短縮



年齢区分	症例数
①15歳未満	1
②15～64歳	343
③65～75歳未満	271
④75歳以上	304
総計	919

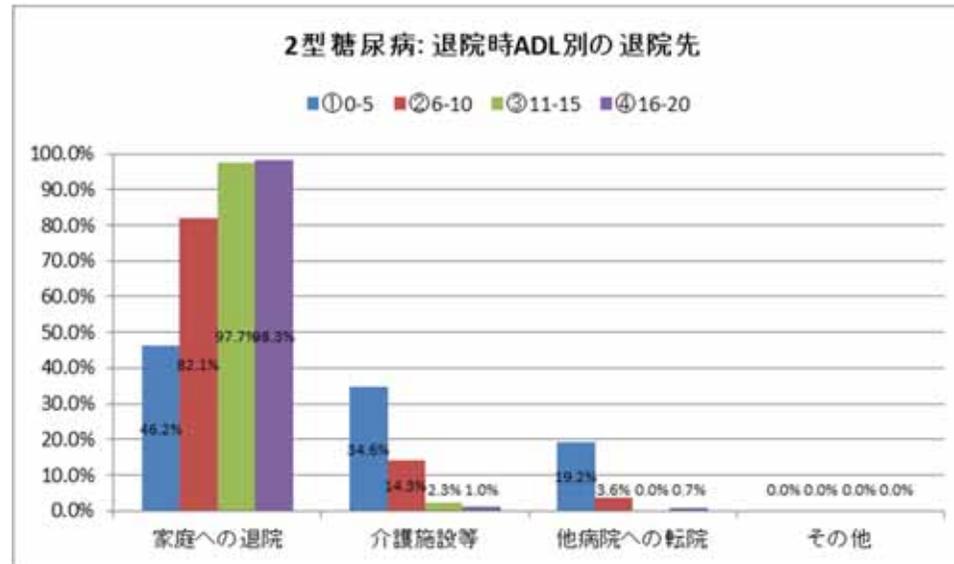
年齢は様々

## 2型糖尿病:3日以内のリハビリ開始で2単位未満/日

入院時 ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例 数	入院 時ADL	退院 時ADL	改善 ADL	症例 数	入院 時ADL	退院 時ADL	改善 ADL	症例 数	入院 時ADL	退院 時ADL	改善 ADL
①0-5	34	1.41	8.06	6.65	16	1.31	7.69	6.38				
②6-10	22	8.95	13.32	4.36	13	8.00	10.69	2.69	1	8.00	8.00	0.00
③11-15	32	13.03	15.84	2.81	21	13.29	15.48	2.19	4	13.25	14.75	1.50
④16-20	492	19.76	19.91	0.15	263	19.73	19.82	0.09	21	19.76	19.90	0.14
総計	580	17.91	18.74	0.84	313	17.87	18.53	0.66	26	18.31	18.65	0.35

2型糖尿病では  
2単位未満/日  
でよい。基礎代謝  
の向上が目的

退院時ADLが5以下の  
場合には家庭への  
退院が46.2%と  
低下するため6以上  
にする必要あり



# 誤嚥性肺炎

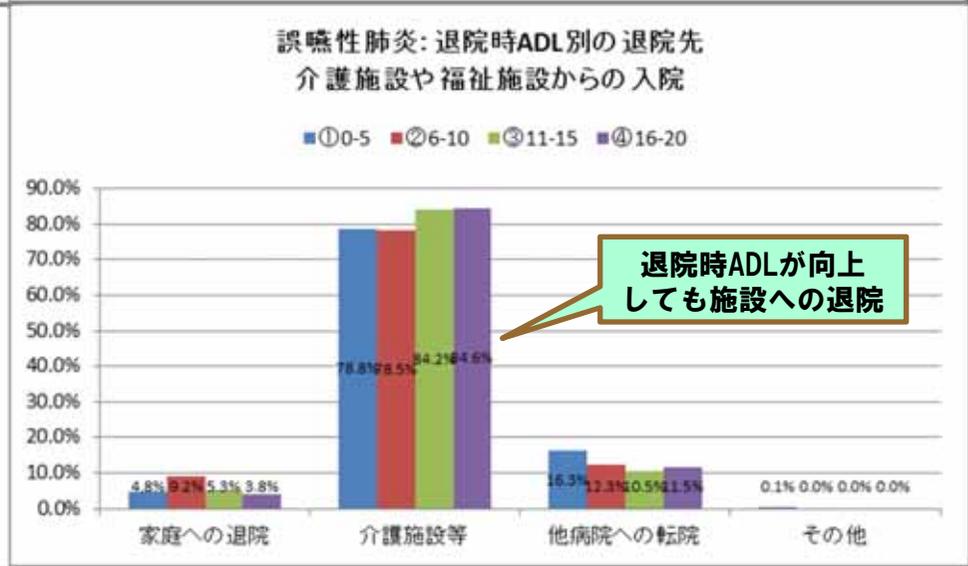
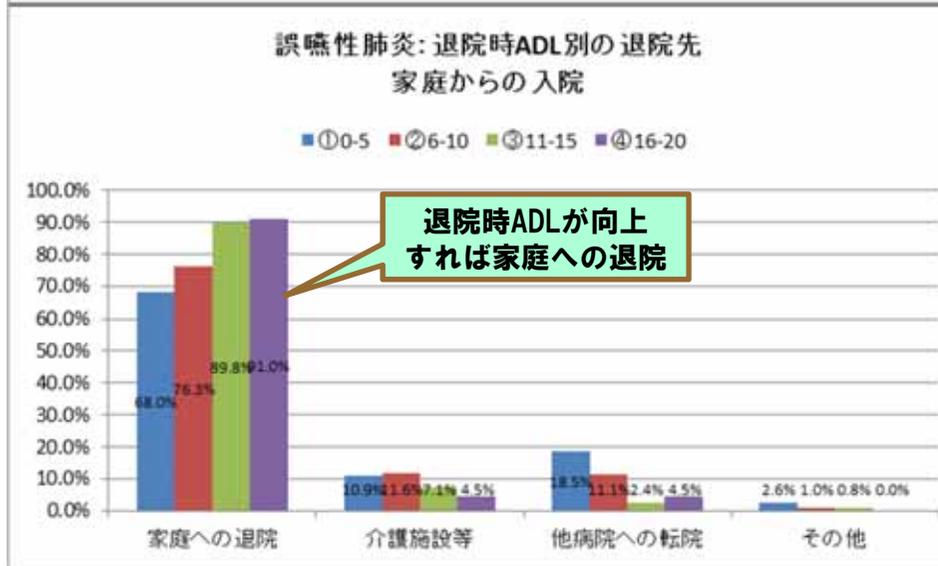
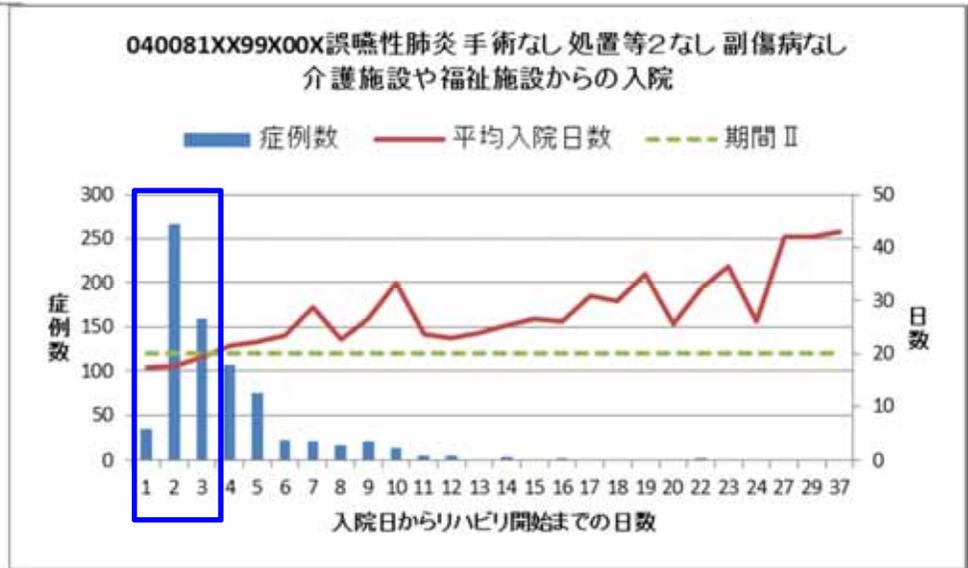
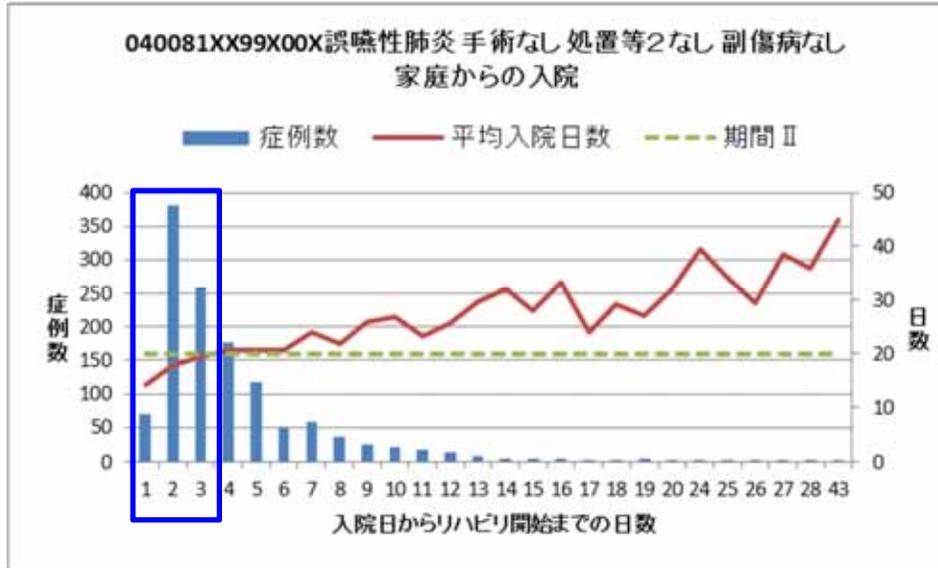
診断群分類名称	分類番号	リハビリ有り無し					
		なし			あり		
		症例数	平均入院日数	平均入院時ADL	症例数	平均入院日数	平均入院時ADL
誤嚥性肺炎 手術なし 処置等2 なし 副傷病なし	040081xx99x00x	1,022	15.91	3.79	2,144	20.37	2.36
誤嚥性肺炎 手術あり 処置等2 なし	040081XX97X0XX	89	25.81	1.67	189	46.86	1.23
誤嚥性肺炎 手術なし 処置等2 あり	040081xx99x1xx	15	18.20	0.00	70	28.00	1.44
誤嚥性肺炎 手術あり 処置等2 あり	040081xx97x1xx	3	33.67	0.00	38	59.26	0.79
誤嚥性肺炎 手術なし 処置等2 なし 副傷病あり	040081xx99x01x	7	28.00	0.14	36	39.94	1.56
総計		1,136	16.83	3.54	2,477	23.49	2.21

誤嚥性肺炎のリハビリ有り無しを比べると、リハビリありでは入院時ADLがより低く、入院日数も長くなる傾向にある。

入院経路	リハビリ有り無し					
	なし			あり		
	症例数	平均入院日数	平均入院時ADL	症例数	平均入院日数	平均入院時ADL
家庭からの入院	641	14.77	5.47	1,274	20.07	3.35
介護施設や福祉施設に入所中	348	18.29	0.89	780	20.63	0.85
他病院からの転院	32	12.53	1.75	83	22.40	1.48
院内の他病棟からの転棟				6	18.33	0.00
その他	1	22.00	1.00	1	41.00	0.00
総計	1,022	15.91	3.79	2,144	20.37	2.36

誤嚥性肺炎では、家庭からの入院と介護施設や福祉施設に入所中からの患者が多く、リハビリ有り無しを比べると、リハビリありでは入院時ADLがより低く、入院日数も長くなる傾向にある。

# 誤嚥性肺炎:入院日から3日以内にリハビリ開始で日数短縮



# 誤嚥性肺炎：入院日から3日以内にリハビリ開始でのADL効果

## 家庭からの入院

入院時ADL 区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL
①0-5	390	0.42	3.62	3.20	161	0.66	4.77	4.11	6	1.33	7.50	6.17
②6-10	36	8.36	12.67	4.31	25	8.08	12.40	4.32	3	8.00	13.00	5.00
③11-15	29	12.86	15.83	2.97	9	12.11	15.56	3.44	1	13.00	19.00	6.00
④16-20	35	19.31	19.60	0.29	11	19.18	19.64	0.45	1	20.00	20.00	0.00
総計	490	3.09	6.15	3.06	206	3.05	6.96	3.91	11	5.91	11.18	5.27

入院時ADLが低い0-10は、2~4単位未満/日で改善ADLは改善するが、0-5は退院時ADLが4.77までしか向上しない。従って、急性期では3日以内にリハビリ開始し、20日以内で退院し、訪問リハビリでの継続が必要と考える

## 介護施設や福祉施設からの入院

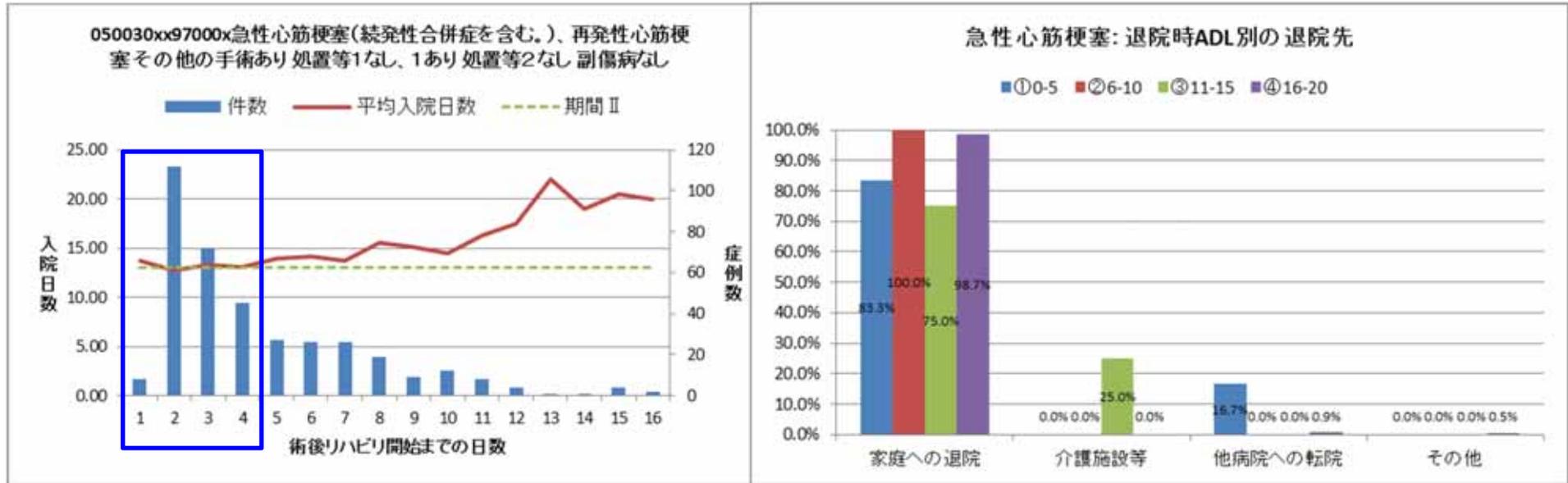
入院時ADL 区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL
①0-5	330	0.10	1.17	1.07	100	0.24	2.12	1.88	2	0.00	1.00	1.00
②6-10	18	8.17	11.28	3.11	1	9.00	9.00	0.00				
③11-15	3	12.33	14.00	1.67	2	11.00	16.00	5.00				
④16-20	3	18.00	20.00	2.00	2	19.50	20.00	0.50				
総計	354	0.77	1.95	1.18	105	0.90	2.79	1.90	2	0.00	1.00	1.00

入院時ADLが低い0-5は、2~4単位未満/日で改善ADLは改善するが、0-5は退院時ADLが1.88までしか向上しない。従って、急性期では3日以内にリハビリ開始し、施設での維持期リハビリの継続が必要と考える

# 急性心筋梗塞のリハビリ有り無し

診断群分類名称	分類番号	リハビリ有り無し		症例数
		なし	あり	
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 なし 副傷病なし	050030xx97000x	295	387	682
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 3あり 副傷病なし	050030xx97030x	26	182	208
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 1あり 副傷病なし	050030xx97010x	11	45	56
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 1あり 副傷病なし	050030xx97510x	8	35	43
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 なし	050030xx9750xx	12	16	28
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病なし	050030xx99000x	34	15	49
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 なし 副傷病あり	050030xx97001x	1	13	14
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 冠動脈、大動脈バイパス移植術等 処置等15あり 処置等2 1あり	050030xx0251xx		12	12
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等11あり 処置等2 3あり	050030xx9913xx	4	10	14
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等11あり 処置等2 なし 副傷病なし	050030xx99100x	51	9	60
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 1あり 副傷病あり	050030xx97011x		9	9
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 1あり 副傷病あり	050030xx97511x		7	7
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 3あり 副傷病なし	050030xx97530x	1	7	8
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 3あり 副傷病あり	050030xx97031x		6	6
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等1なし 処置等2 なし 副傷病あり	050030xx99001x		5	5
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 2あり 副傷病なし	050030xx97020x	2	5	7
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 2あり 副傷病なし	050030xx97520x		4	4
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 冠動脈、大動脈バイパス移植術等 処置等11あり 処置等2 1あり	050030xx0211xx		4	4
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 3あり 副傷病あり	050030xx97531x		4	4
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等1なし 処置等2 3あり	050030xx9903xx		2	2
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等15あり 処置等2 2あり 副傷病あり	050030xx97521x		2	2
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 処置等1なし、1あり 処置等2 2あり 副傷病あり	050030xx97021x		2	2
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等11あり 処置等2 なし 副傷病あり	050030xx99101x		2	2
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 冠動脈、大動脈バイパス移植術等 処置等1なし 処置等2 1あり	050030xx0201xx		2	2
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 心室瘤切除術(梗塞切除を含む。) 単独のもの等 処置等2 1あり	050030xx01x1xx		1	1
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 手術なし 処置等11あり 処置等2 1あり	050030xx9911xx	3	1	4
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 冠動脈、大動脈バイパス移植術等 処置等15あり 処置等2 3あり	050030xx0253xx		1	1
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 冠動脈、大動脈バイパス移植術等 処置等15あり 処置等2 2あり	050030xx0252xx		1	1
総計		448	789	1,237

# 急性心筋梗塞:4日以内にリハビリ開始で2単位未満/日の実施



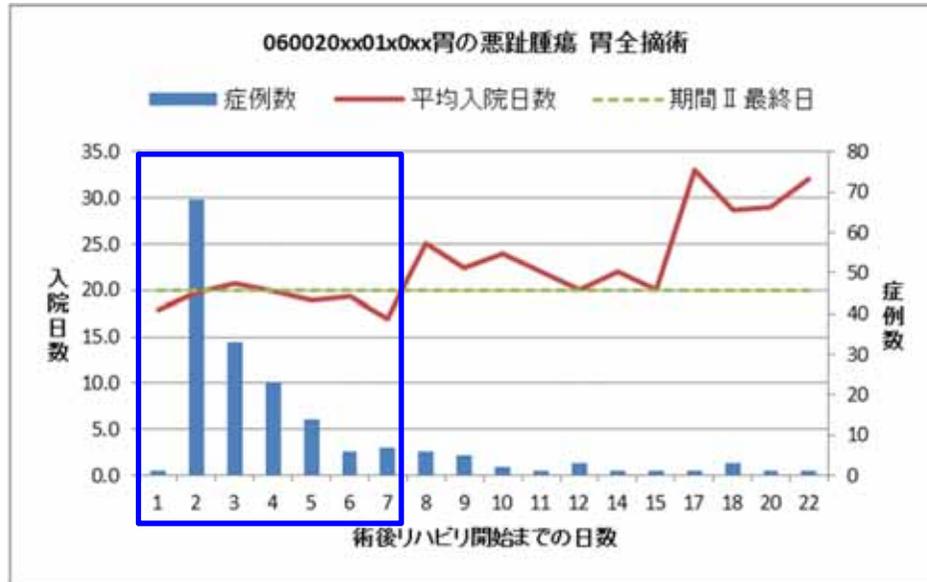
入院時ADLが低い0-5は、2単位未満/日で改善ADLは18以上向上し、家庭への退院が可能となる。従って、4日以内にリハビリ開始すると、13日以内で退院できる。

入院時ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	115	0.40	18.47	18.07	25	0.40	19.68	19.28				
②6-10	9	8.33	19.89	11.56	2	9.50	20.00	10.50				
③11-15	2	11.50	19.00	7.50					1	14.00	20.00	6.00
④16-20	64	19.81	19.98	0.17	19	19.68	20.00	0.32				
総計	190	7.43	19.05	11.62	46	8.76	19.83	11.07	1	14.00	20.00	6.00

# 胃の悪性腫瘍の手術症例のリハビリ有り無し

診断群分類名称	DPC分類番号	手術あり			
		リハビリなし		リハビリあり	
		症例数	入院日数	症例数	入院日数
胃の悪性腫瘍 胃全摘術 悪性腫瘍手術等 処置等2 なし	060020xx01x0xx	497	18.7	179	20.5
胃の悪性腫瘍 胃全摘術 悪性腫瘍手術等 処置等2 1あり	060020xx01x1xx	124	30.4	56	36.9
胃の悪性腫瘍 腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術等 処置等2 なし	060020xx02x0xx	288	14.9	29	15.9
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 なし	060020xx97x0xx	123	10.4	15	22.1
胃の悪性腫瘍 腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術等 処置等2 1あり 副傷病なし	060020xx02x10x	20	28.0	12	30.3
胃の悪性腫瘍 試験開腹術等 処置等2 なし	060020xx03x0xx	50	13.2	7	21.0
胃の悪性腫瘍 試験開腹術等 処置等2 3あり	060020xx03x3xx	14	27.7	7	42.1
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 3あり	060020xx97x3xx	56	16.0	5	35.6
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 1あり	060020xx97x1xx	5	36.4	5	41.2
胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 処置等2 なし	060020xx04x0xx	1,147	9.1	4	10.8
胃の悪性腫瘍 試験開腹術等 処置等2 1あり	060020xx03x1xx	9	29.8	3	43.3
胃の悪性腫瘍 腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術等 処置等2 1あり 副傷病あり	060020xx02x11x	4	45.0	2	45.0
胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 処置等2 1あり	060020xx04x1xx	2	37.5	2	24.0
胃の悪性腫瘍 胃全摘術 悪性腫瘍手術等 処置等2 3あり	060020xx01x3xx	11	37.0	2	34.0
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 2あり	060020xx97x2xx			1	50.0
胃の悪性腫瘍 試験開腹術等 処置等2 4あり	060020xx03x4xx	2	31.5	1	66.0
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 4あり	060020xx97x4xx	19	15.1	1	55.0
胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 処置等2 3あり	060020xx04x3xx	3	13.0		
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 5あり 副傷病あり	060020xx97x51x	3	18.0		
胃の悪性腫瘍 胃全摘術 悪性腫瘍手術等 処置等2 4あり	060020xx01x4xx	2	46.5		
胃の悪性腫瘍 その他の手術あり 処置等2 5あり 副傷病なし	060020xx97x50x	8	17.5		
総計		2,387	13.9	331	25.0

# 胃の悪性腫瘍の胃全摘術の7日以内のリハビリは日数短縮化



年齢区分	件数
②15～64歳	13
③65～75歳未満	65
④75歳以上	101
総計	179

75歳以上の高齢者にリハビリを実施するケースが多い

入院時ADL区分	リハビリ単位数/日区分							
	症例数	①2単位未満/日			②2～4単位未満/日			
		入院時ADL	退院時ADL	改善ADL	症例数	入院時ADL	退院時ADL	改善ADL
①0-5	2	1.50	13.50	12.00	3	0.00	0.00	0.00
②6-10					1	10.00	10.00	0.00
③11-15	7	12.57	14.57	2.00	1	14.00	14.00	0.00
④16-20	118	19.93	19.98	0.05	20	19.85	19.85	0.00
総計	127	19.24	19.58	0.35	25	16.84	16.84	0.00

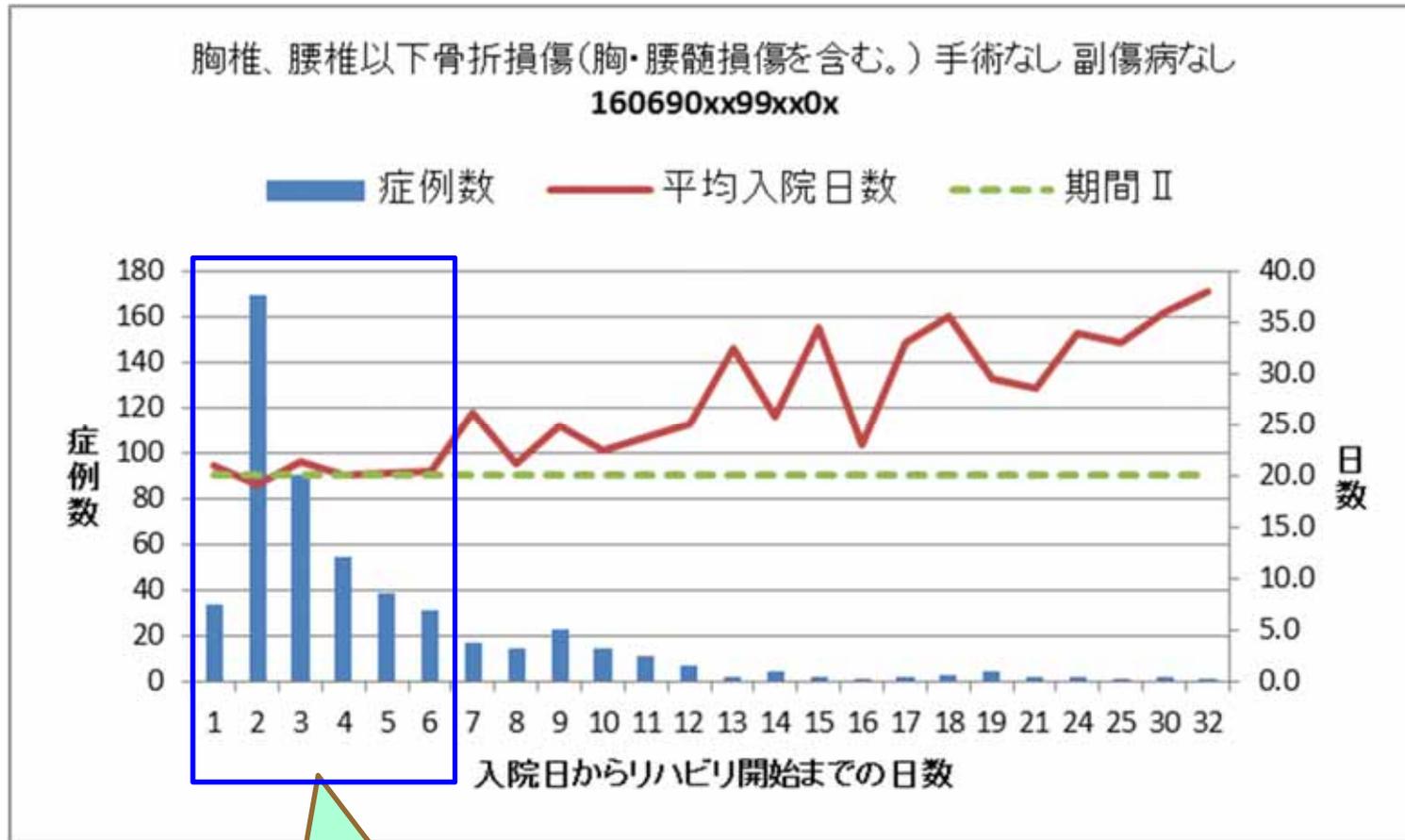
入院時ADLが高いケースが多く、退院時ADLもさほど変わらない。

## 胸椎、腰椎以下骨折損傷

診断群分類名称	分類番号	リハビリあり				リハビリなし					
		件数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	入院日 数	件数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	入院日 数
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし 副傷病なし	160690xx99xx0x	534	6.52	14.72	8.19	21.33	75	8.60	14.36	5.76	10.52
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) その他の手術あり	160690xx97xxxx	29	7.72	14.45	6.72	26.34	9	18.22	18.89	0.67	6.67
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 脊椎、骨盤脱臼観血的手術等	160690xx01xxxx	18	8.83	18.56	9.72	30.17					
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし 副傷病あり	160690xx99xx1x	3	0.00	12.00	12.00	33.67					
総計		584	6.62	14.81	8.19	21.91	84	9.63	14.85	5.21	10.11

リハビリありでは、なしに比べて、入院時ADLが低く、改善ADLも向上している。よりADLの低い患者に対してリハビリを実施している。

# 胸椎、腰椎以下骨折損傷で6日以内のリハビリ開始で日数



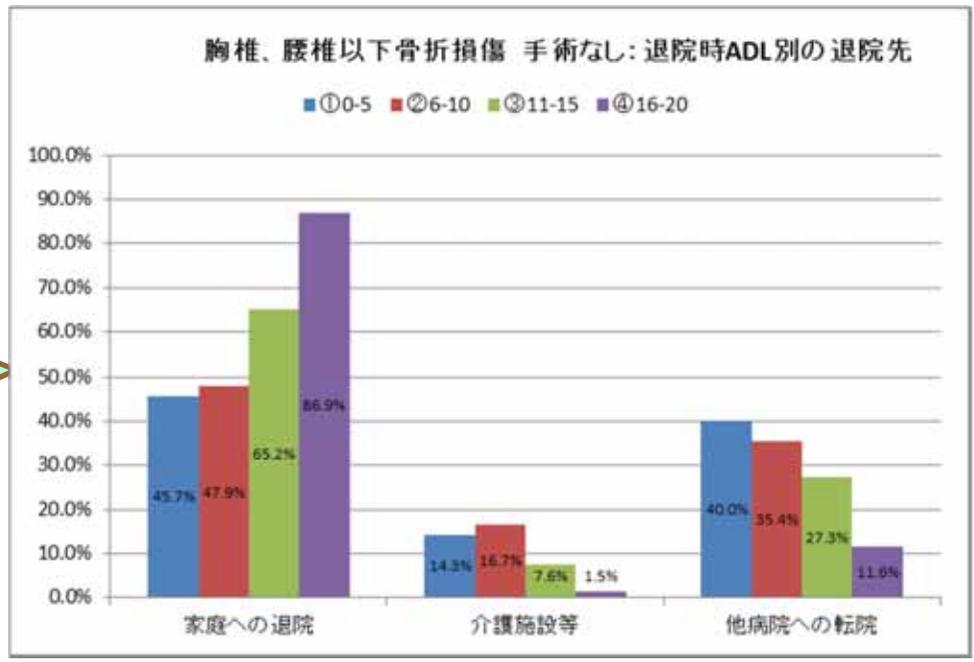
入院から6日以内のリハビリ開始では、  
期間Ⅱ程度で入院日数が短い

# 胸椎、腰椎以下骨折損傷で6日以内のリハビリ開始のADL

入院時 ADL区分	リハビリ単位数/日区分											
	①2単位未満/日				②2~4単位未満/日				③4単位以上/日			
	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL	症例 数	入院時 ADL	退院時 ADL	改善 ADL
①0-5	123	1.64	11.75	10.11	72	1.71	12.40	10.69	4	2.25	16.00	13.75
②6-10	75	8.40	15.83	7.43	39	7.95	14.77	6.82				
③11-15	41	12.10	17.68	5.59	19	12.47	17.74	5.26				
④16-20	36	18.83	19.42	0.58	7	18.57	19.43	0.86	2	20.00	20.00	0.00
総計	275	7.29	14.75	7.45	137	5.84	14.18	8.34	6	8.17	17.33	9.17

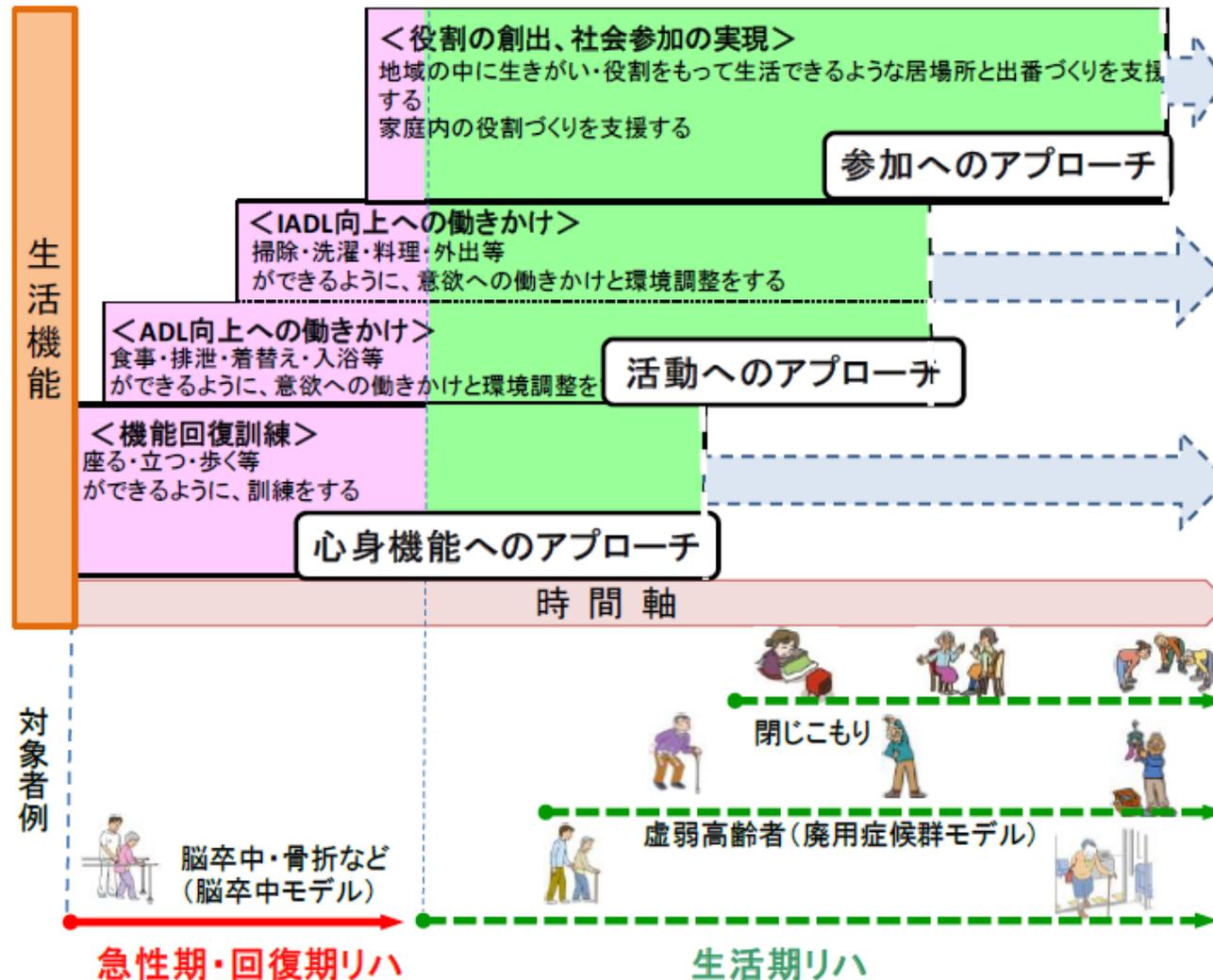
リハビリを2単位未満/日で実施すると改善ADLが向上する

退院時ADLが16以上になると、86.9%以上が家庭への退院となり、それ以外は他病院への転院でのリハビリの継続となる。  
従って、集中リハビリで16以上に上がらなければ、回復期リハビリへの転院を検討する。



# リハビリは継続してADLの向上と維持を図る

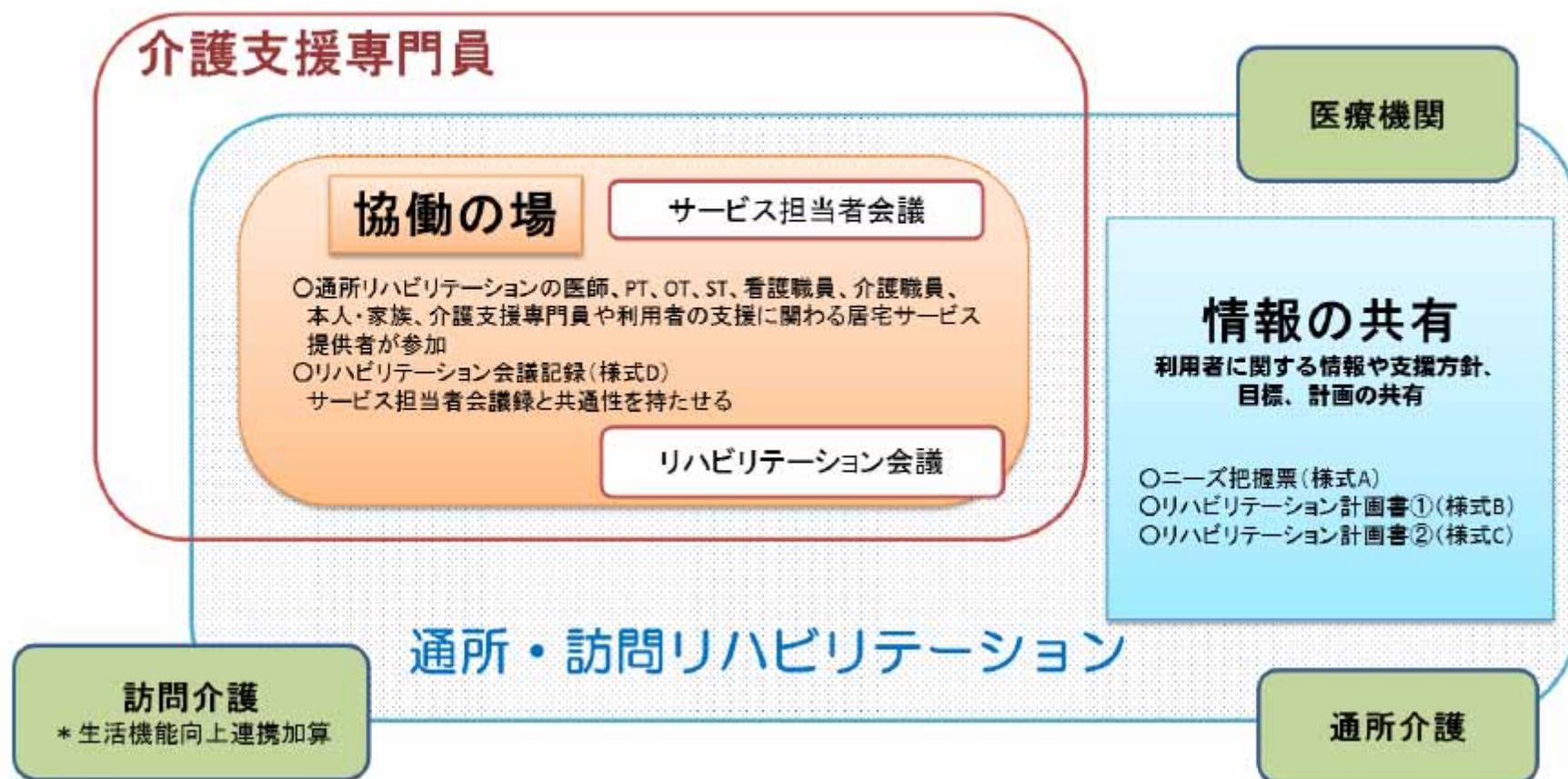
図表Ⅱ－⑧ 生活機能とその構成要素



出典：国際機能分類を基に厚生労働省老健局老人保健課が作成した資料

# おおむね自宅ときどき病院としての在り方

図表IV-① 居宅サービスの協働方法のイメージ



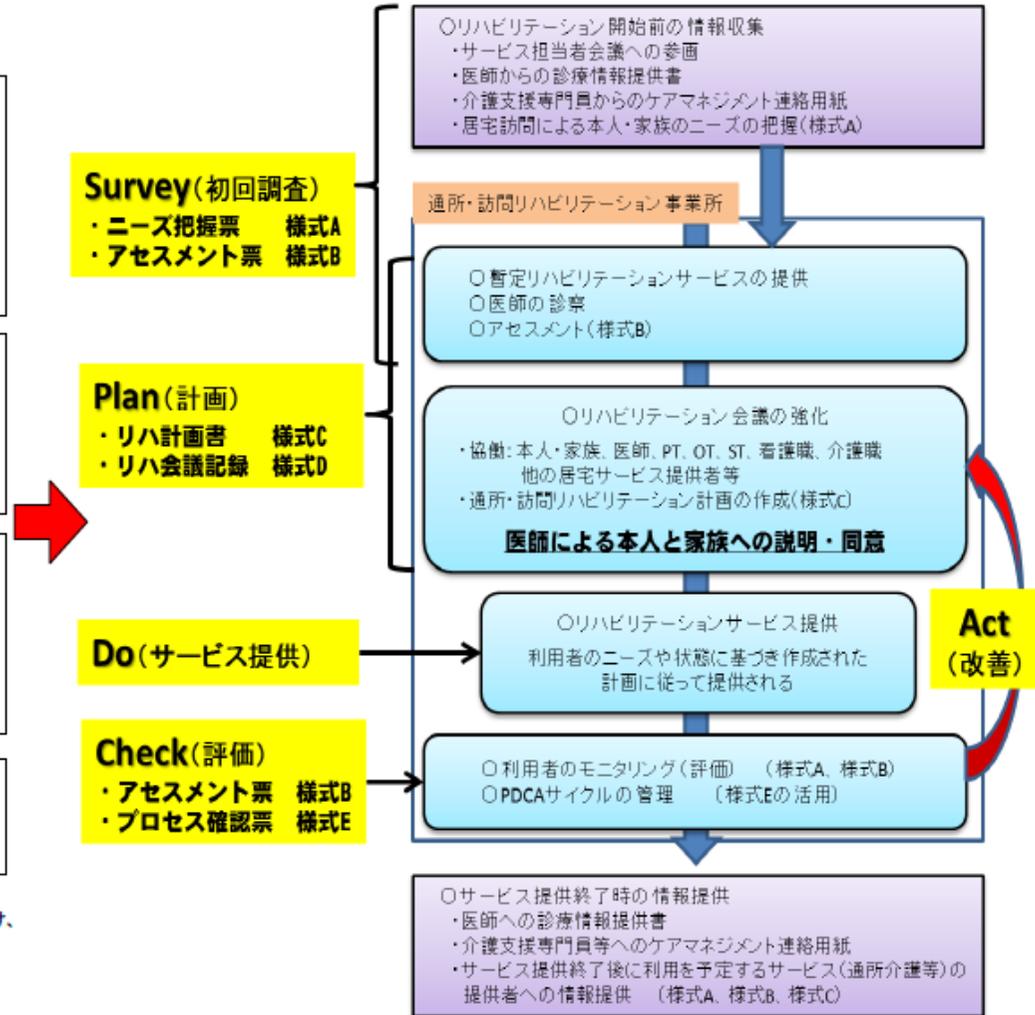
出展：厚生労働省 高齢者の地域における新たなリハビリテーションの在り方検討会報告書平成27年3月

# リハビリの改善はSPDCA

図表Ⅳ-② リハビリテーションマネジメントの課題点(左図)と見直し後の流れ図(右図)

- 【事前調査期の課題】**
  - 他サービス事業所の計画等の情報を入手しづらい。
  - 主治医からリハビリテーション実施時の留意事項等の情報を入手しづらい。
  - 地域からの廃用症候群や認知症等の事例はニーズを把握しづらく、導入判断が遅れやすい。
  - 急性期、回復期、生活期を通じて利用者の情報を把握できる存在がおらず、各フェーズで情報共有が途切れている。
  - 事前調査時から利用者のことを十分に把握できていないと、本人も事業所側も通所継続が目的となってしまうやすい。
- 【計画策定期の課題】**
  - ケアプランとリハビリテーション実施計画が乖離している事例がある。
  - リハビリテーション実施計画書に基づく通所頻度や訪問等の必要性を介護支援専門員に提供しても、ケアプランにほとんど反映されない場合が多い。
  - カンファレンスにデイケア担当医が参加することが望ましいと考えるが、診療等で忙しく参加できていない場合も多い。
- 【評価期の課題】**
  - サービス担当者会議が形骸化してしまい、ケアプランの読み合わせになっているため、リハビリテーション実施計画を共有してもプランに反映されない。
  - リハビリテーション実施計画書を見直すタイミングとケアプラン作成のタイミングが合わないため、情報共有してもケアプランの内容に反映されにくい。
  - 再評価(モニタリング)と目標の再設定の場面に、介護支援専門員やかかりつけ医が参加することが望ましいと考えるが、実際には難しい。
- 【サービス終了期の課題】**
  - サービス終了後のフォローができればよいが、介護報酬体系で評価されないため、容易に実施できない。
  - 終了時の情報共有は介護支援専門員への書面での報告が中心となっている。

\* 全国デイ・ケア協会、日本訪問リハビリテーション協会から優良事業所3か所ずつ推薦を受け、生活期のリハビリテーションマネジメントの現状と課題についてインタビュー調査を行った。



出展：厚生労働省 高齢者の地域における新たなリハビリテーションの在り方検討会報告書平成27年3月

# なりたい・したいを実現するリハビリ

図表Ⅳ－⑩ 生活行為向上リハビリテーションプログラムプラン票(案)

本人の生活行為の目標		例) 料理ができるようになりたい。			
家族からみた本人ができるようになってほしいこと		例) 本人がしたいことをしてほしい。			
実施期間		通所訓練期		社会適応訓練期	
		【通所頻度】	【期 間】	【通所頻度】	【期 間】
心身機能	プログラム	例) ・立位の耐久性(20分) ・麻痺のある手の機能訓練【個別訓練】(20分) ・ストレッチ体操への参加(20分)		例) ・屋外歩行練習(自己訓練) ・物の運搬練習(随時) ・ストレッチ体操への参加(20分)	
	自己訓練 (家族への指導を含む)	例) ・家で自己訓練のプログラムの実施		例) ・麻痺のある手のケアの練習 ・家庭での自己訓練 ・散歩	
活動	プログラム	例) ・メニューを考える練習 ・片手で釘付まな板を利用し、りんごの皮をむく練習 ・リンゴを切る練習(20分) 【訪問】・自宅で食器を洗う練習と環境調整(椅子の導入)(60分)		例) ・調理の実習(60分) ・買い物練習(料理の材料)(60分) ・バスの利用練習(15分) 【訪問】・自宅で料理実践支援(60分) ・自宅の近くで買い物練習 ・店までの動線確認	
	自己訓練 (家族への指導を含む)	例) ・食器を洗ってみる。 ・家で野菜の材料を切るなどの下ごしらえをする。		例) ・家で料理を作る。	
参加	プログラム	例) ・家族に対して、本人の料理の様子や家でしてもらうことについて相談・指導		例) ・地域の体操教室の見学と参加	
	自己訓練 (家族への指導を含む)			例) ・路線バスを利用してみる。	

**【支援結果】**

※支援結果、目標の達成の有無、終了後利用する参加のサービスの内容、終了後も継続するとよい自己訓練や参加のサービス先で実施するとよいプログラム、生活機能のリスクなどの留意事項を書く。

## 参考文献

- 高齢者リハビリテーションのあるべき方向、高齢者リハビリテーション研究会 平成16年1月
- 大腿骨近位部骨折術後の痛みの発生状況に関する実態調査、日本理学療法学会大会 2009 (0), C4P1138-C4P1138, 2010